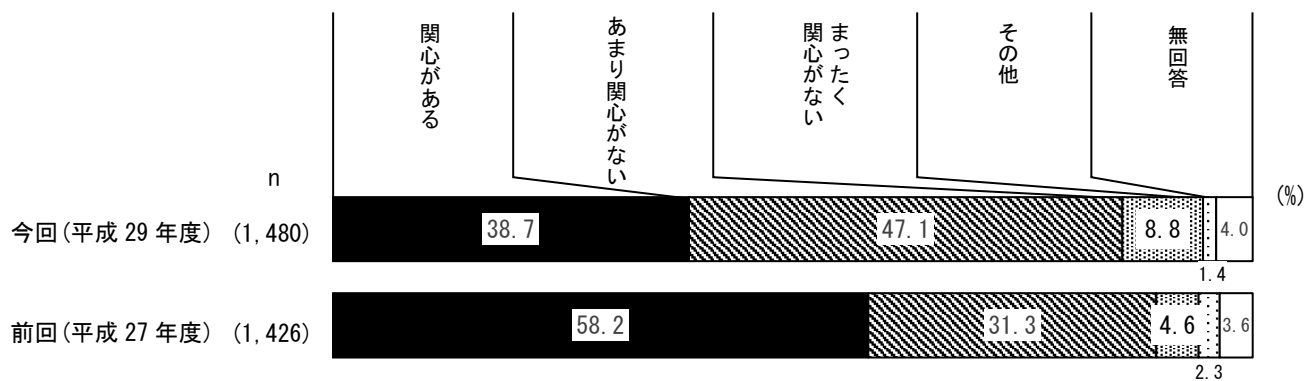


4. ボランティア活動について

(1) ボランティア活動への関心の有無

問4-1 あなたはボランティア活動に関心がありますか。(一つに〇)

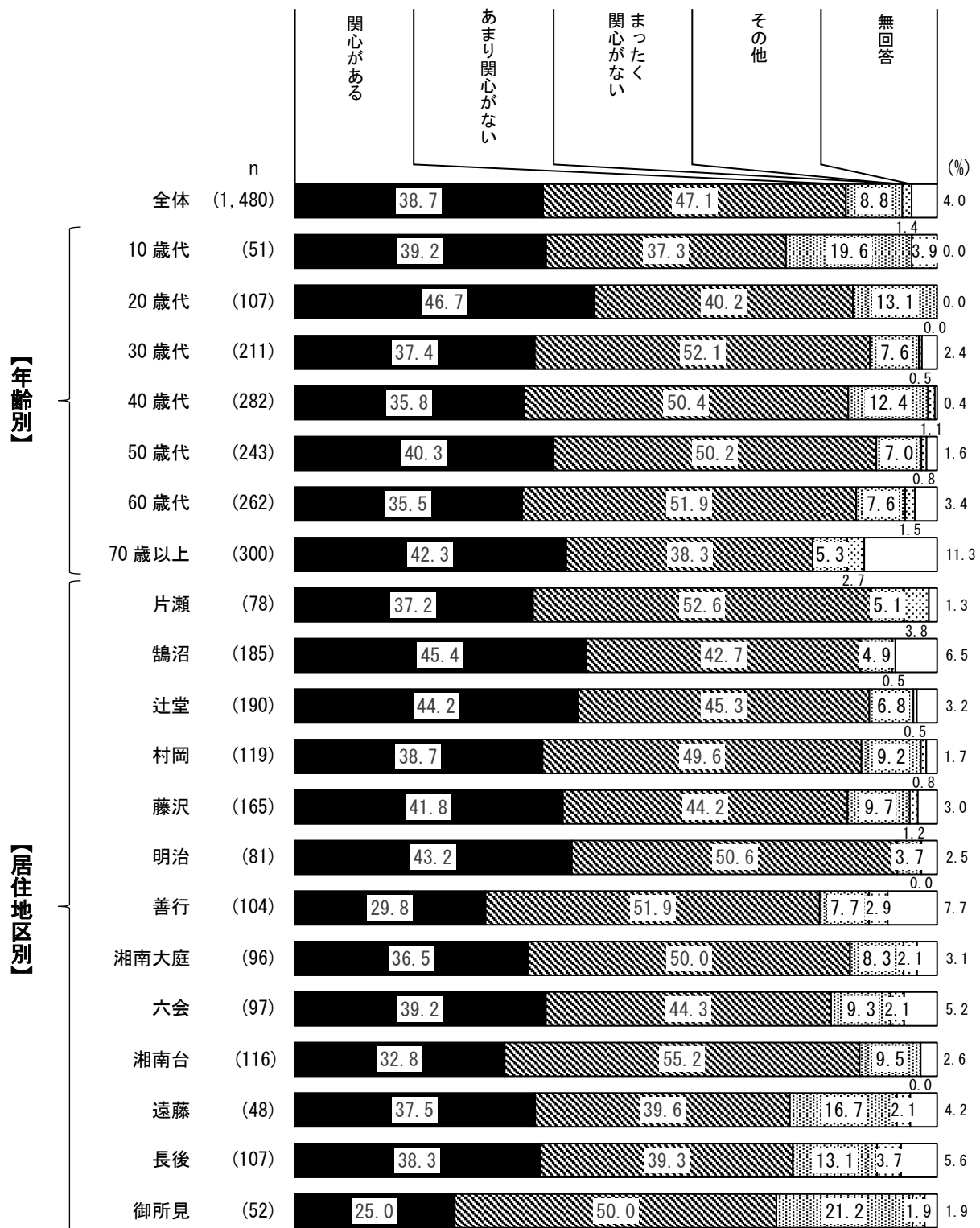
【図表53：ボランティア活動への関心の有無】



※ 前回調査（平成27年度）における「関心がある」は、「関心がある（東日本大震災発生前から関心があった）：32.7%」と「関心がある（東日本大震災発生後、関心を持つようになった）：25.5%」の合計値

ボランティア活動への関心の有無については、「関心がある」が38.7%、「あまり関心がない」が47.1%、「まったく関心がない」が8.8%となっている。

【図表54：年齢別・居住地区別／ボランティア活動への関心の有無】



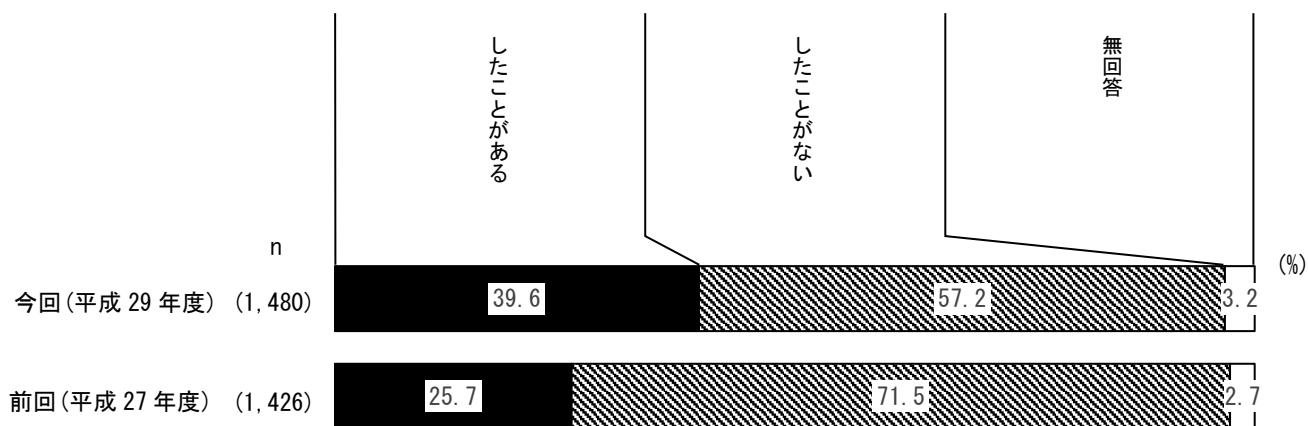
「関心がある」の割合を年齢別にみると、20歳代が46.7%と最も高く、次いで、50歳代（40.3%）と10歳代（39.2%）が約4割となっている。

居住地区別では、鶴沼（45.4%）、辻堂（44.2%）、明治（43.2%）、藤沢（41.8%）などで「関心がある」割合が4割以上となっている。

(2) ボランティア活動の経験

問4-2 あなたは、ボランティア活動をしたことがありますか。(一つに○)

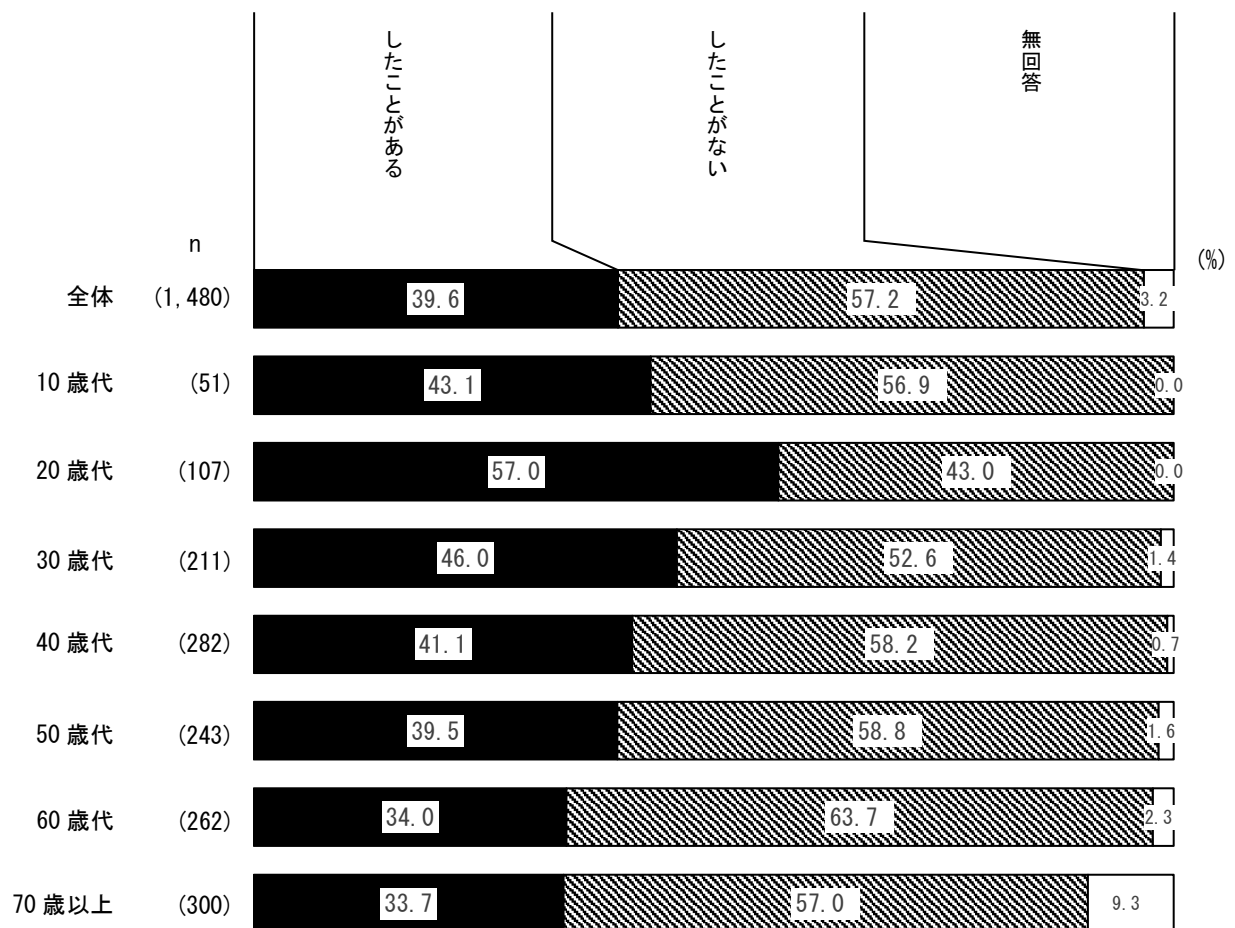
【図表55：ボランティア活動の経験】



※ 前回調査 (平成 27 年度) における「したことがある」は、「したことがある (東日本大震災発生前からしていた) : 21.9%」と「したことがある (東日本大震災発生後、するようになった) : 3.8%」の合計値

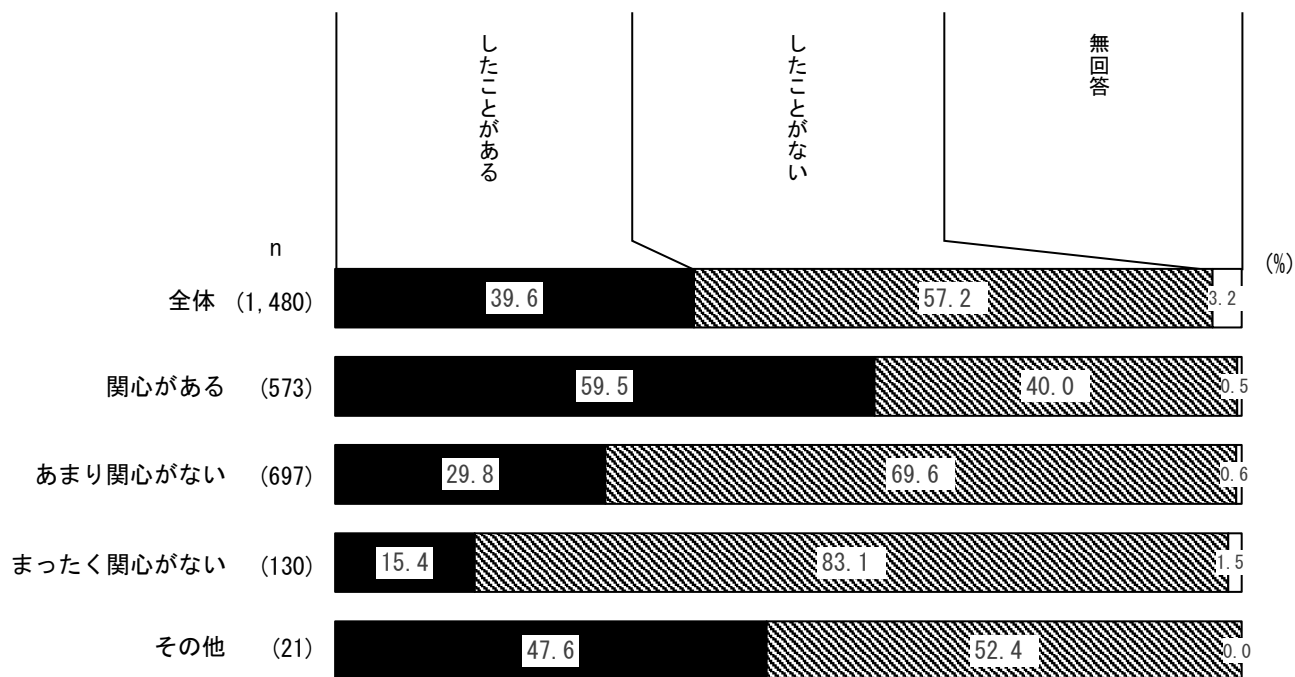
ボランティア活動の経験については、「したことがある」が 39.6%と、前回調査 (平成 27 年度) の 25.7% から 13.9 ポイント上がっている。

【図表56：年齢別／ボランティア活動の経験】



年齢別にみると、20歳代が57.0%とボランティア活動を「したことがある」割合が最も高く、次いで、30歳代（46.0%）、10歳代（43.1%）、40歳代（41.1%）、50歳代（39.5%）の順となっている。

【図表57：ボランティア活動への関心の有無別／ボランティア活動の経験】

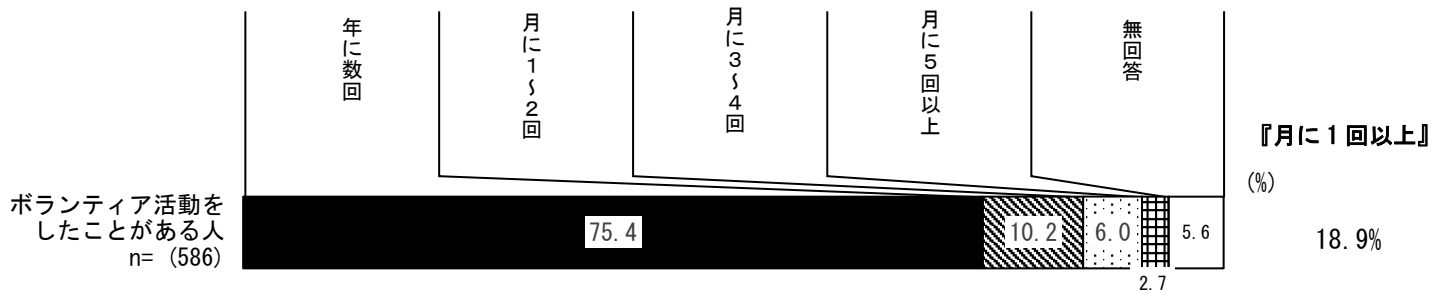


ボランティア活動への関心の有無別にみると、「関心がある」でボランティア活動を「したことがある」のは59.5%、「あまり関心がない」では29.8%となっている。

(3) ボランティア活動への参加の頻度

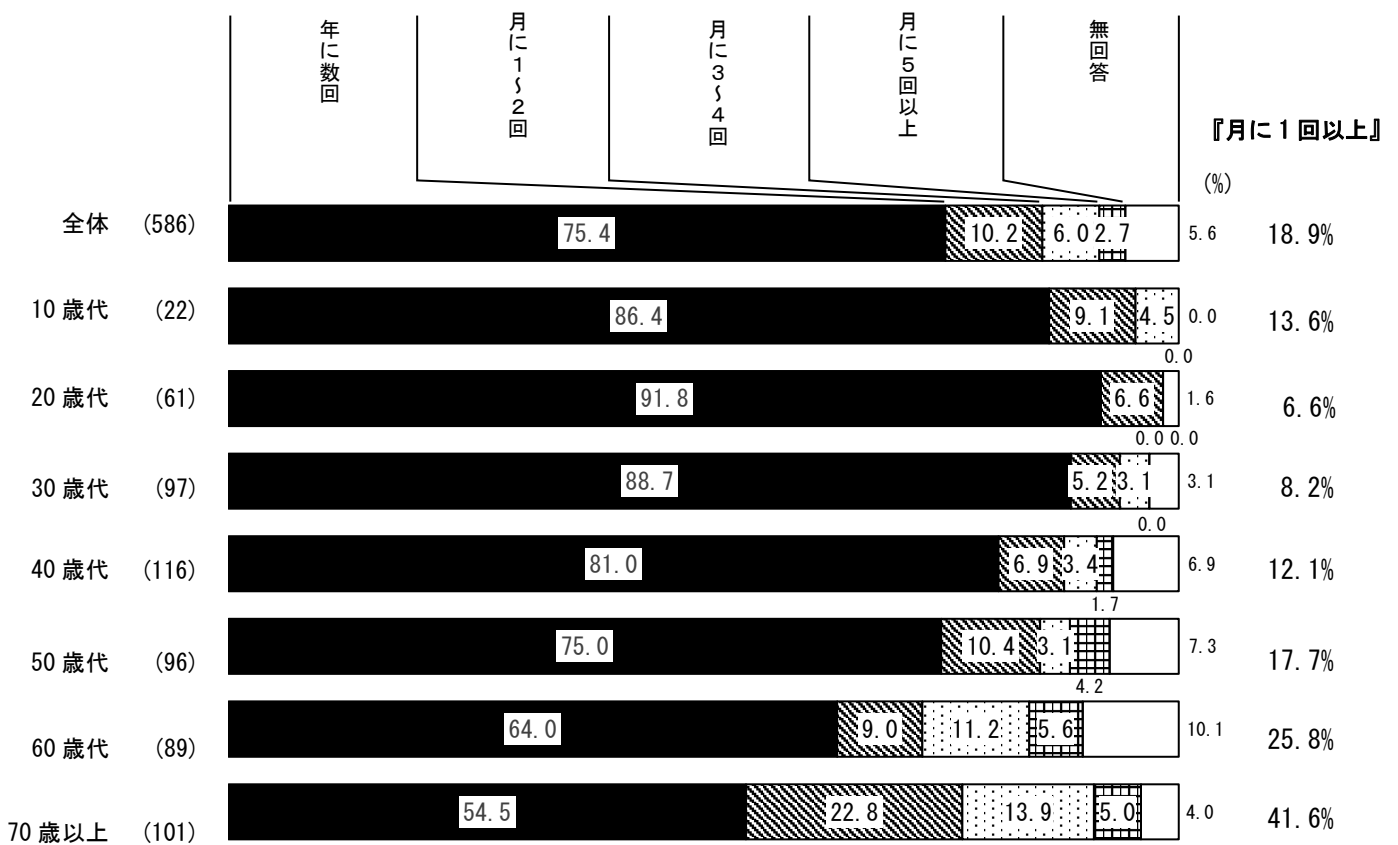
【問4-2で「1. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問4-3 あなたのボランティア活動への参加の頻度をお選びください。(一つに○)

【図表58：ボランティア活動への参加の頻度】



ボランティア活動への参加の頻度については、「年に数回」が75.4%と最も高く、「月に1~2回」が10.2%、「月に3~4回」が6.0%、「月に5回以上」が2.7%となっている。

【図表59：ボランティア活動への参加の頻度】

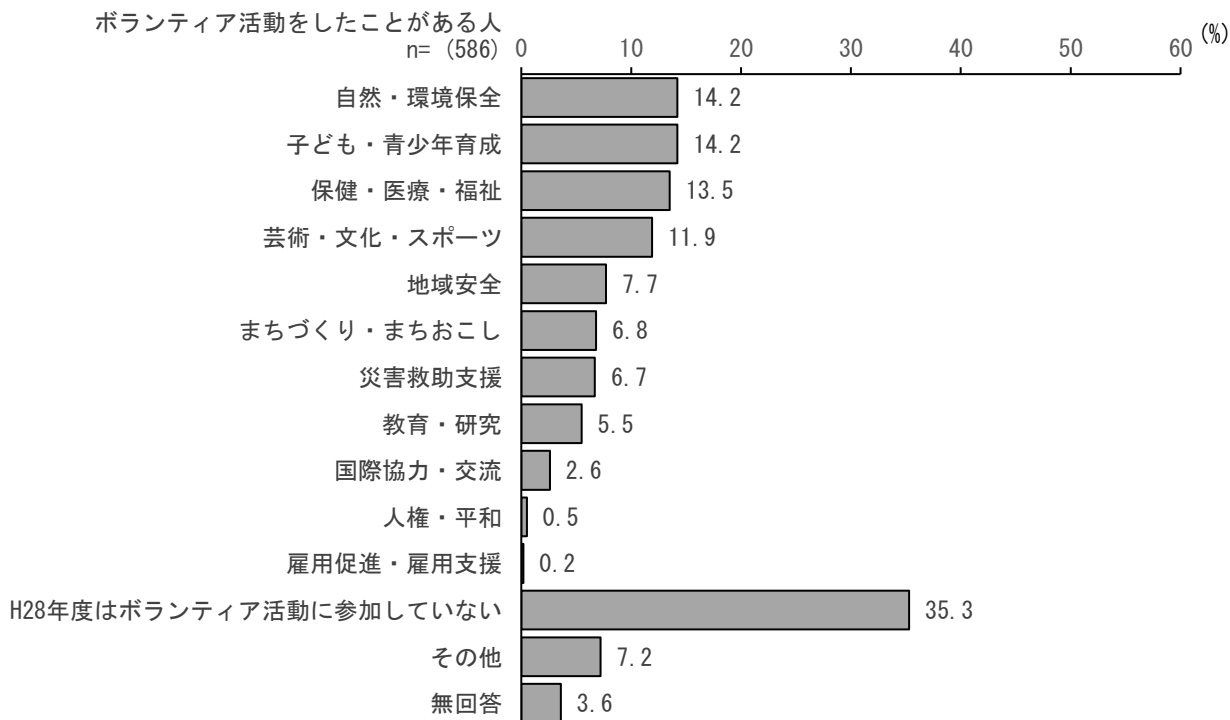


年齢別にみると、年代が上がるにつれボランティア活動への参加頻度が高まる傾向がみられ、70歳以上では41.6%が『月に1回以上』参加している。

(4) 平成28年度中に参加したことがあるボランティア活動

【問4-2で「1. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問4-4 あなたは平成28年度（平成28年4月～平成29年3月）にどのような分野のボランティア活動に参加したことがありますか。（あてはまるものすべてに○）

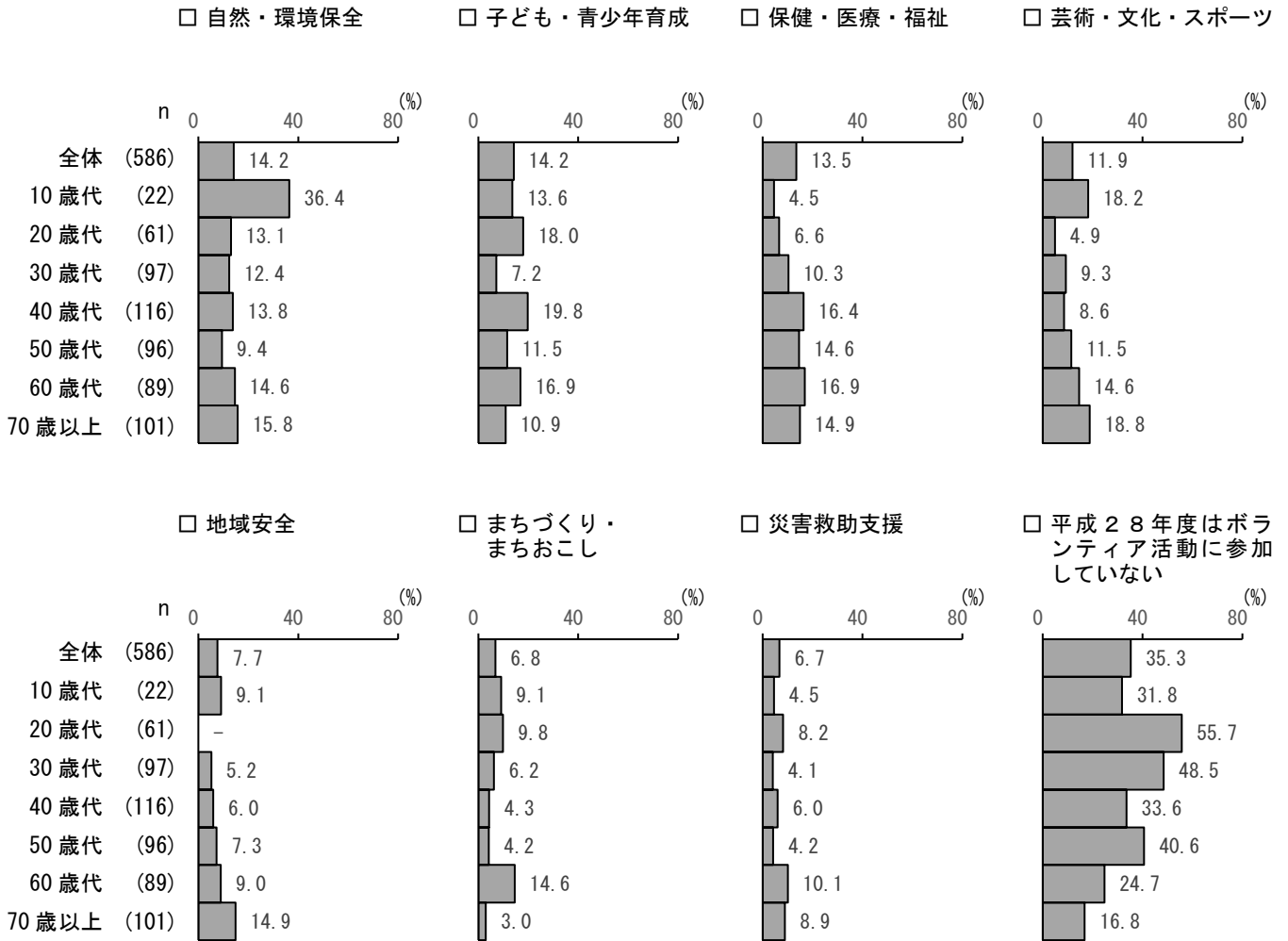
【図表60：平成28年度中に参加したことがあるボランティア活動】



平成28年度中に参加したことがあるボランティア活動については、「自然・環境保全」「子ども・青少年育成」がともに14.2%と最も高く、次いで、「保健・医療・福祉」（13.5%）、「芸術・文化・スポーツ」（11.9%）の順となっている。

なお、「平成28年度はボランティア活動に参加していない」人は35.3%となっている。

【図表6-1：年齢別／平成28年度中に参加したことがあるボランティア活動】上位8項目

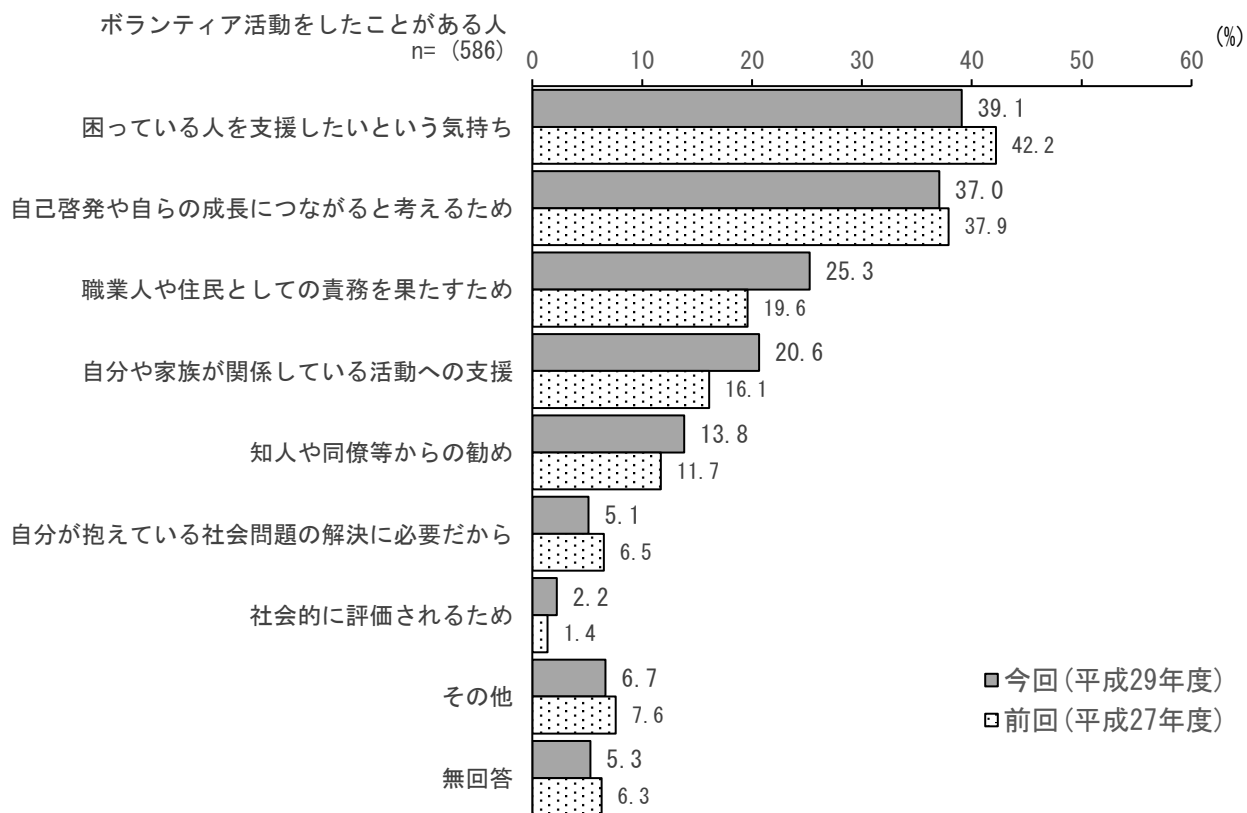


年齢別にみると、「自然・環境保全」は70歳以上（15.8%）や60歳代（14.6%）、「子ども・青少年育成」では40歳代（19.8%）や20歳代（18.0%）などで割合が高くなっている。一方、「平成28年度はボランティア活動に参加していない」割合は、20歳代（55.7%）や30歳代（48.5%）などで高くなっている。

(5) ボランティア活動に参加する理由

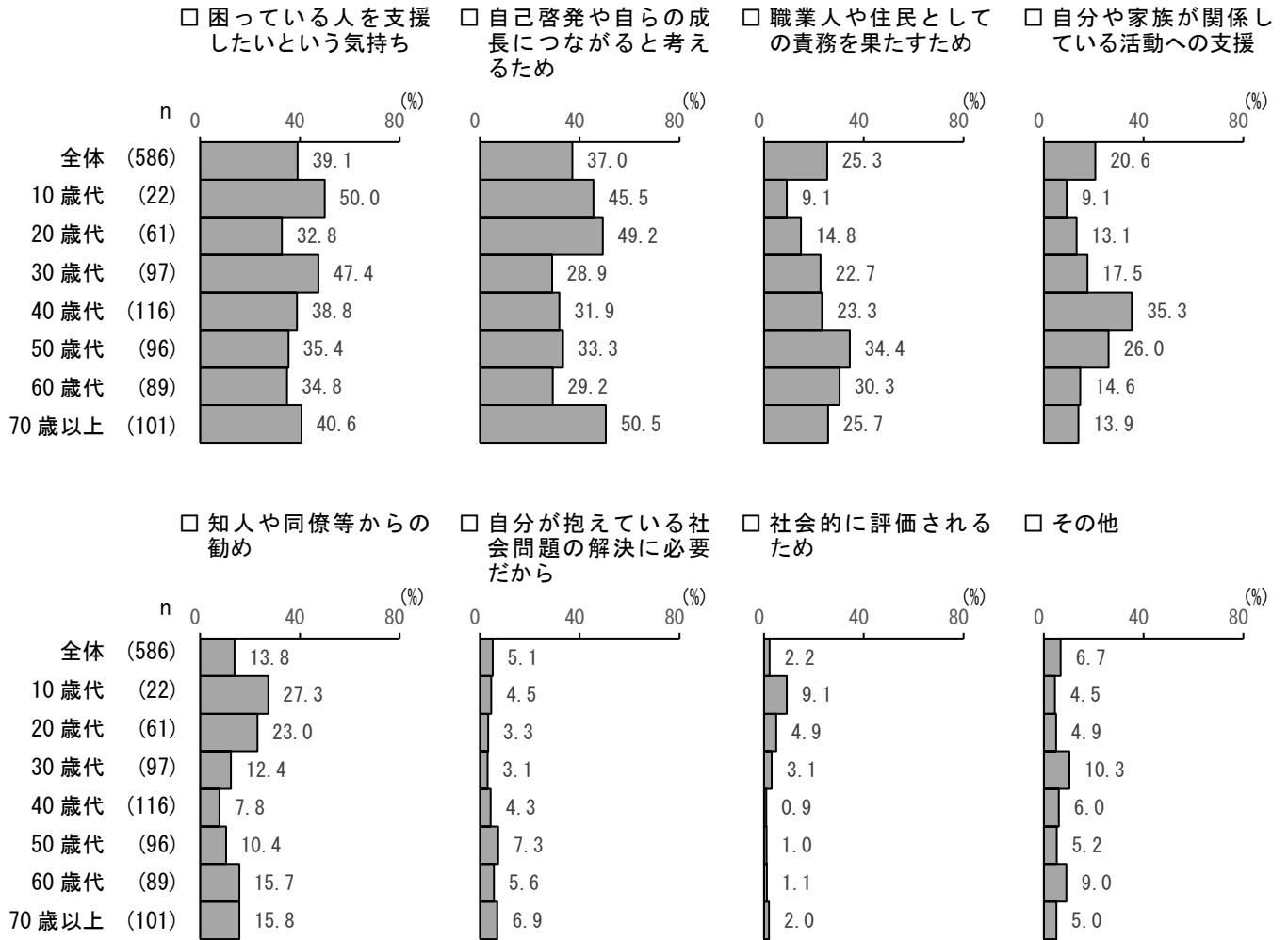
【問4-2で「1. したことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問4-5 あなたにとって、ボランティア活動に参加する理由は何ですか。
 (あてはまるものすべてに○)

【図表62：ボランティア活動に参加する理由】



ボランティア活動に参加する理由については、「困っている人を支援したいという気持ち」が39.1%と最も高く、次いで、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(37.0)、「職業人や住民としての責務を果たすため」(25.3)の順となっている。

【図表6-3：年齢別／ボランティア活動に参加する理由】上位8項目

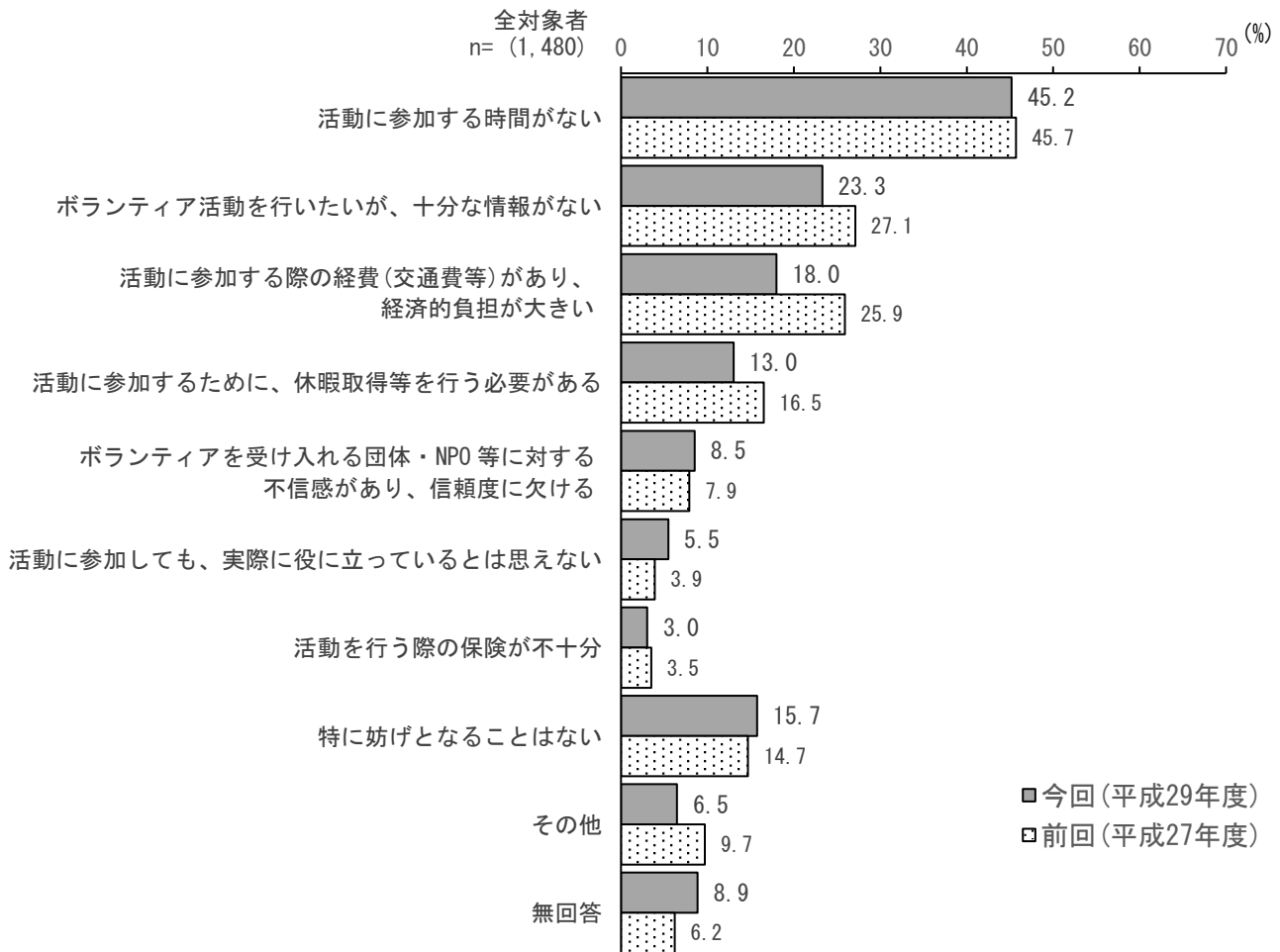


「困っている人を支援したいという気持ち」を年齢別で見ると、30歳代（47.4%）や70歳以上（40.6%）などで高くなっている。また、「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」は、70歳以上（50.5%）や20歳代（49.2%）で高く、「職業人や住民としての責務を果たすため」は、50歳代（34.4%）や60歳代（30.3%）などで割合が高くなっている。

(6) ボランティア活動に参加することに妨げとなること

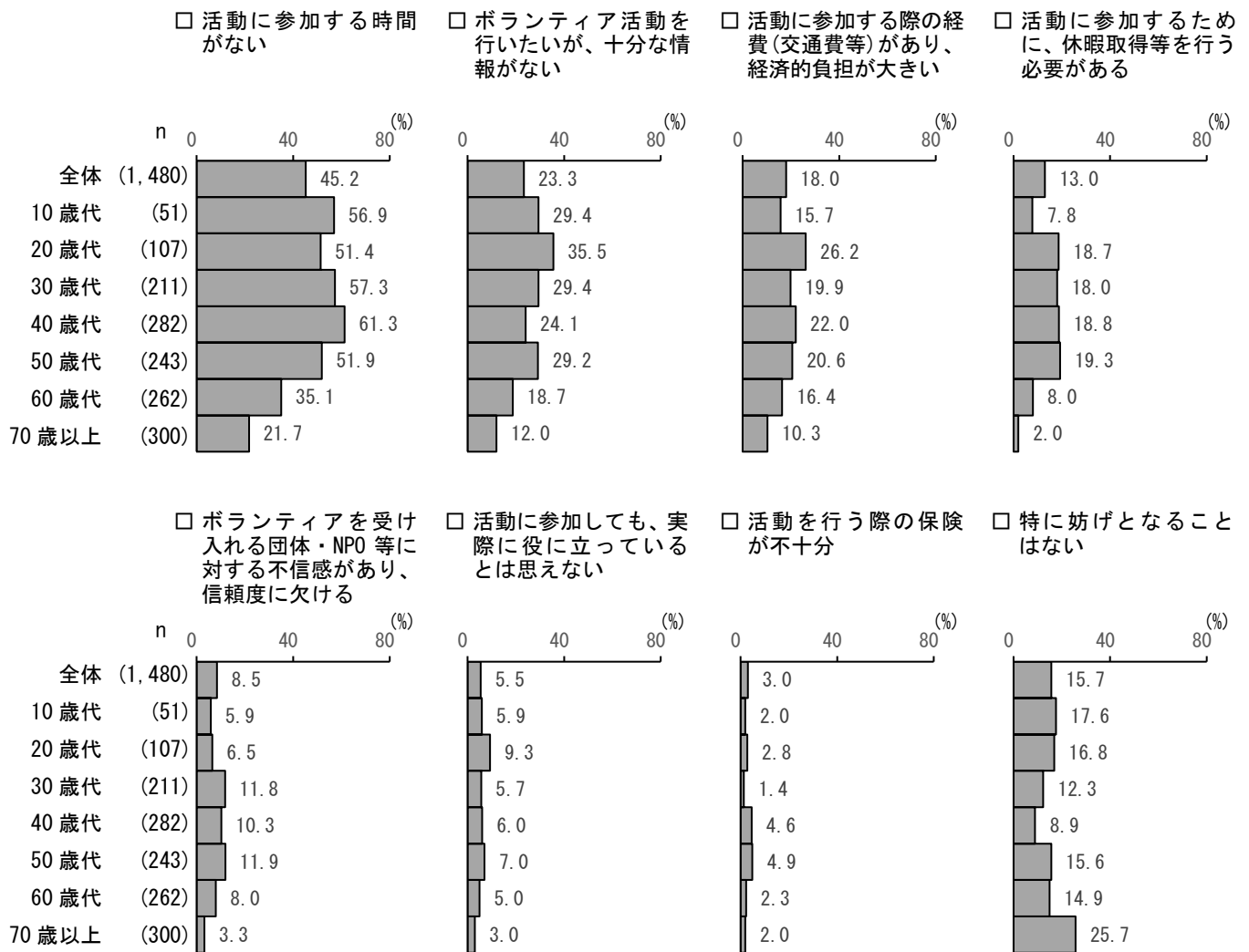
問4-6 ボランティア活動に参加することに妨げとなることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表64：ボランティア活動に参加することに妨げとなること】



ボランティア活動に参加することに妨げとなることについては、「活動に参加する時間がない」が45.2%と最も高く、次いで、「ボランティア活動を行いたい、十分な情報がない」(23.3%)、「活動に参加する際の経費(交通費等)があり、経済的負担が大きい」(18.0%)の順となっている。

【図表65：年齢別／ボランティア活動に参加することに妨げとなること】上位8項目

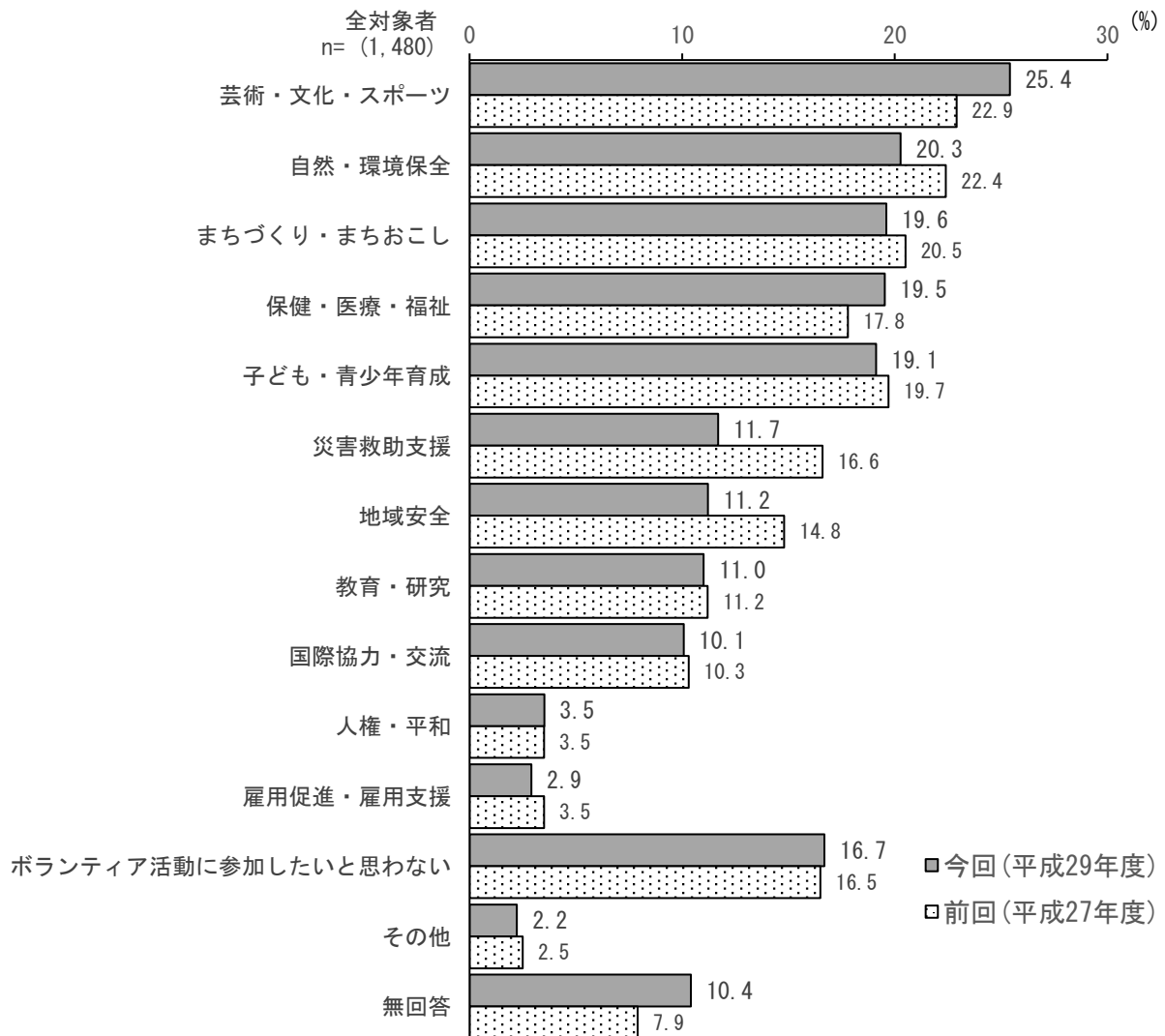


「活動に参加する時間がない」を年齢別で見ると、40歳代が61.3%と最も高く、次いで、30歳代(57.3%)、10歳代(56.9%)、50歳代(51.9%)、20歳代(51.4%)が5割を超えている。「ボランティア活動を行いたい、十分な情報がない」は、20歳代が35.5%と最も高く、次いで、10歳代(29.4%)、30歳代(29.4%)、50歳代(29.2%)などが3割近くとなっている。「活動に参加する際の経費(交通費等)があり、経済的負担が大きい」も、20歳代が26.2%と最も高く、次いで、40歳代(22.0%)、50歳代(20.6%)などの割合が高くなっている。

(7) 今後参加したいボランティア活動の分野

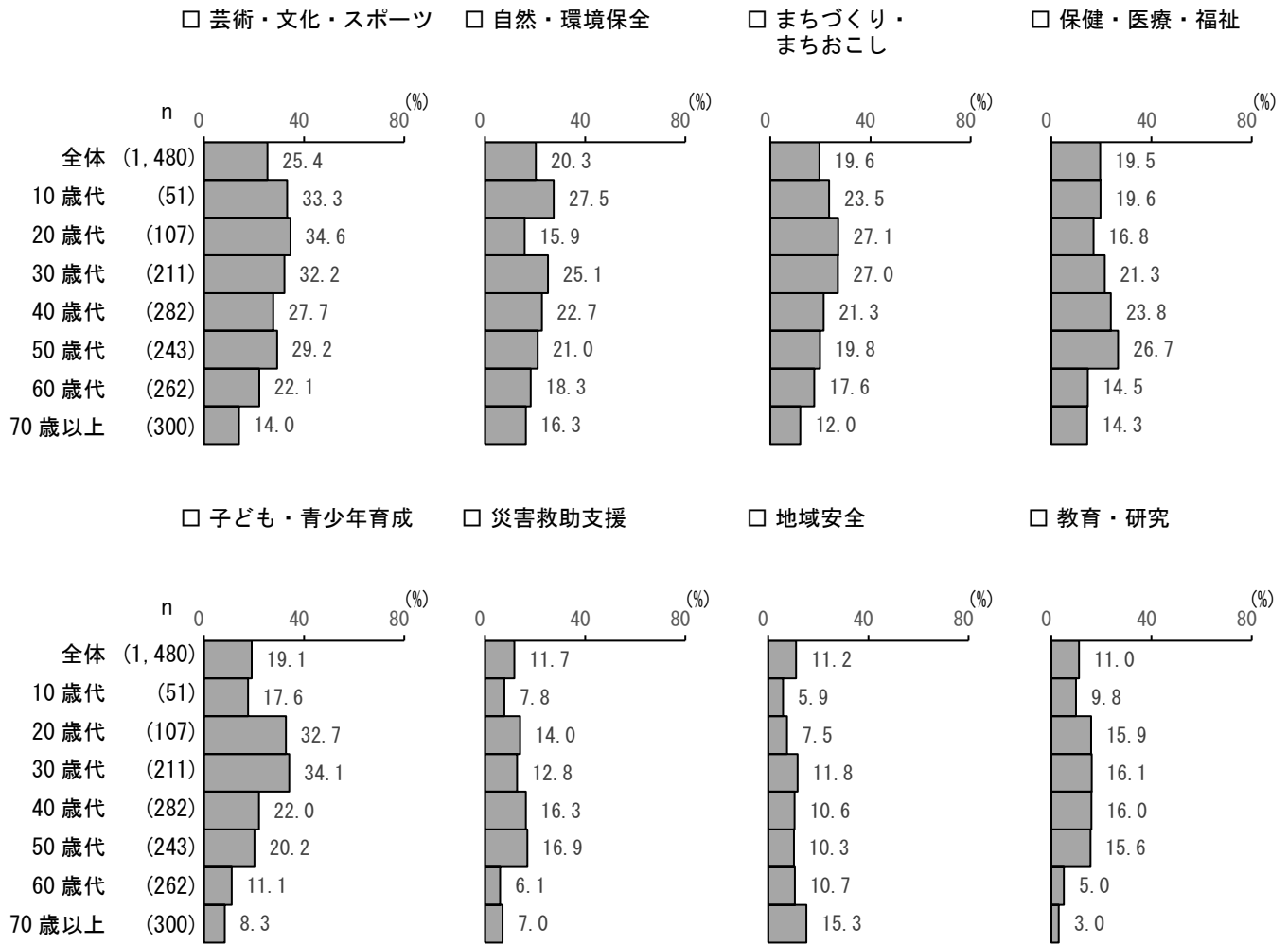
問4-7 あなたが今後参加したいボランティア活動の分野を選んでください。
(あてはまるものすべてに○)

【図表66：今後参加したいボランティア活動の分野】



今後参加したいボランティア活動については、「芸術・文化・スポーツ」が25.4%と最も高く、次いで、「自然・環境保全」(20.3%)、「まちづくり・まちおこし」(19.6%)、「保健・医療・福祉」(19.5%)、子ども・青少年育成」(19.1%)の順となっている。

【図表67：年齢別／今後参加したいボランティア活動の分野】上位8項目

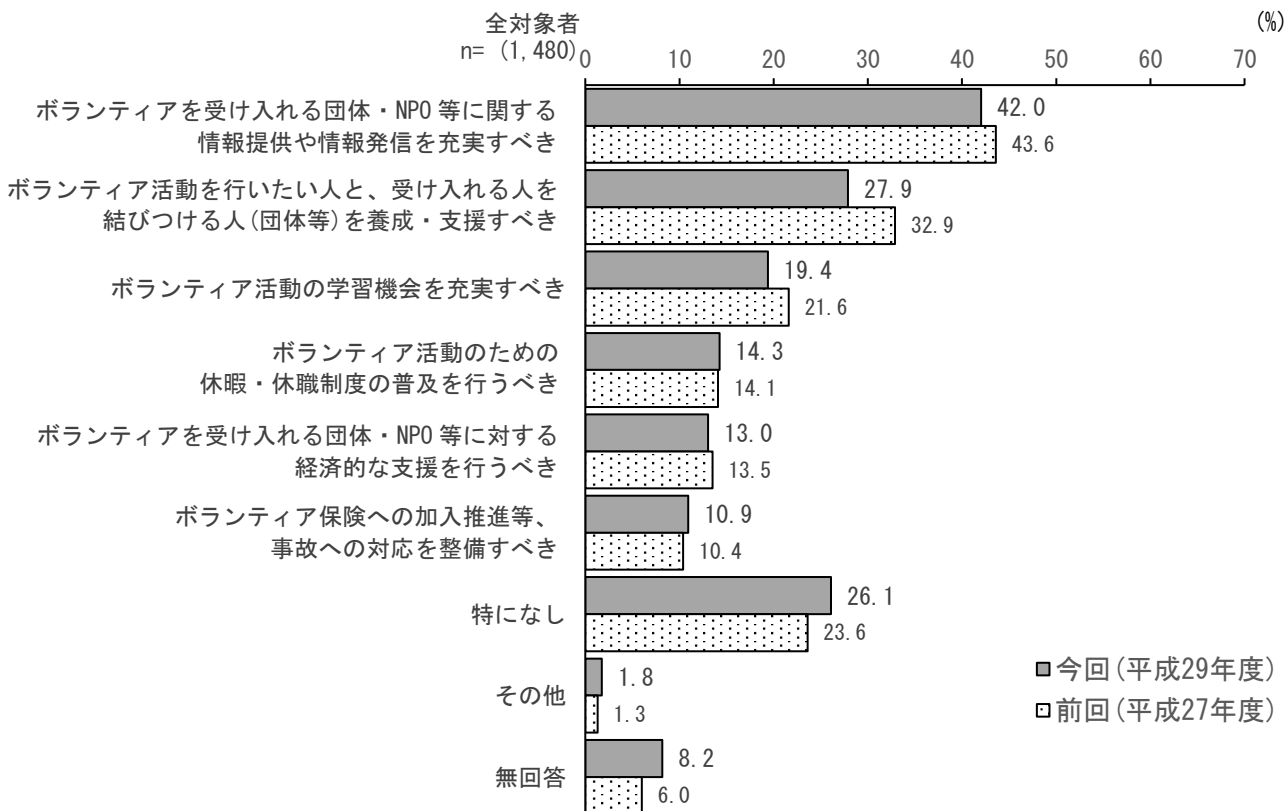


「芸術・文化・スポーツ」を年齢別で見ると、20歳代が34.6%と最も高く、次いで、10歳代(33.3%)、30歳代(32.2%)が3割を超えている。「自然・環境保全」は、10歳代が27.5%と最も高く、次いで、30歳代(25.1%)、40歳代(22.7%)、50歳代(21.0%)などの割合が高くなっている。「まちづくり・まちおこし」は、20歳代(27.1%)と30歳代(27.0%)の割合が最も高くなっている。

(8) ボランティア活動について市に望むこと

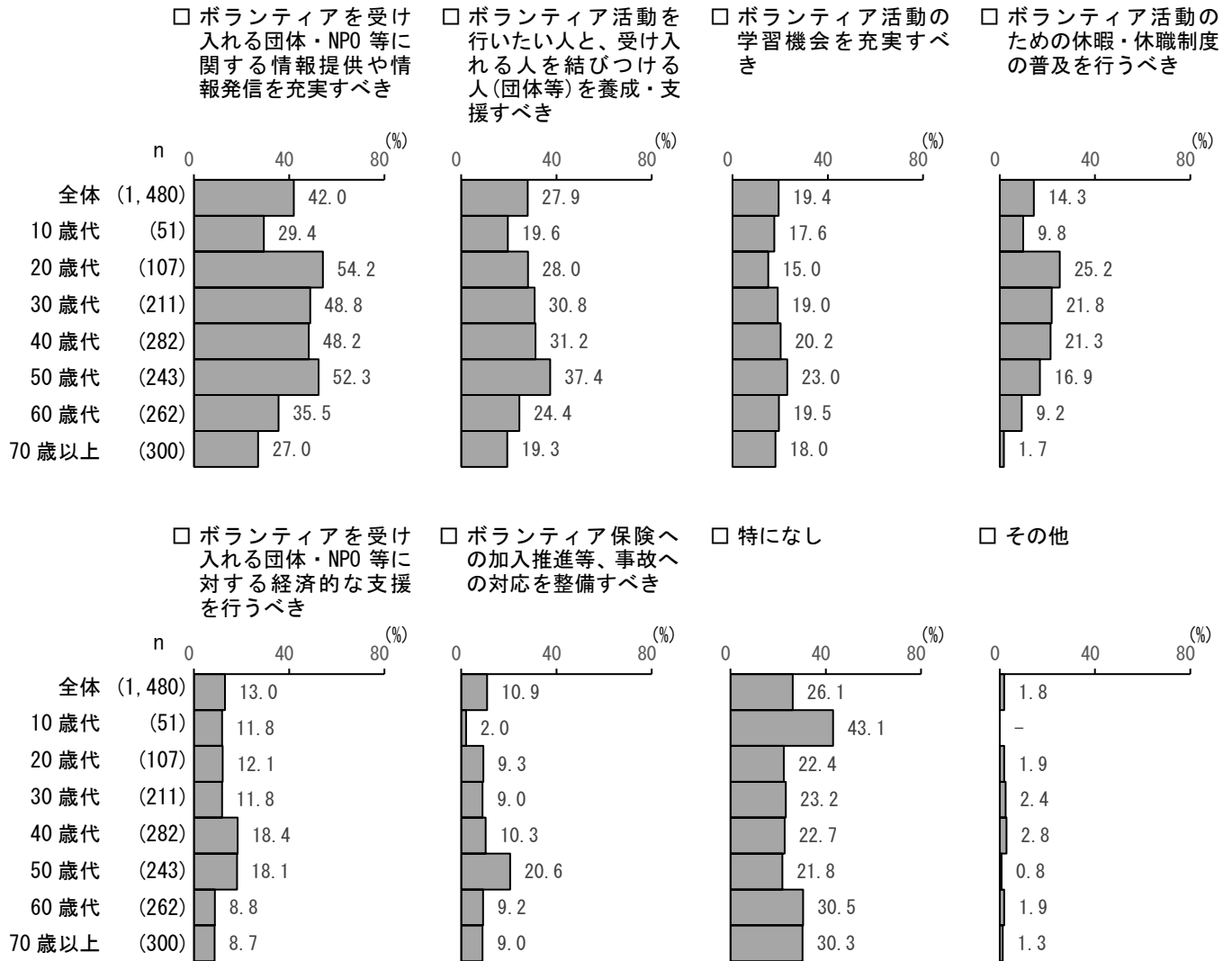
問4-8 ボランティア活動について、市にどのようなことを望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表68：ボランティア活動について市に望むこと】



ボランティア活動について市に望むことについては、「ボランティアを受け入れる団体・NPO等に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が42.0%と最も高くなっている。次いで、「ボランティア活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」(27.9%)、「ボランティア活動の学習機会を充実すべき」(19.4%)の順となっている。

【図表69：年齢別／ボランティア活動について市に望むこと】上位8項目



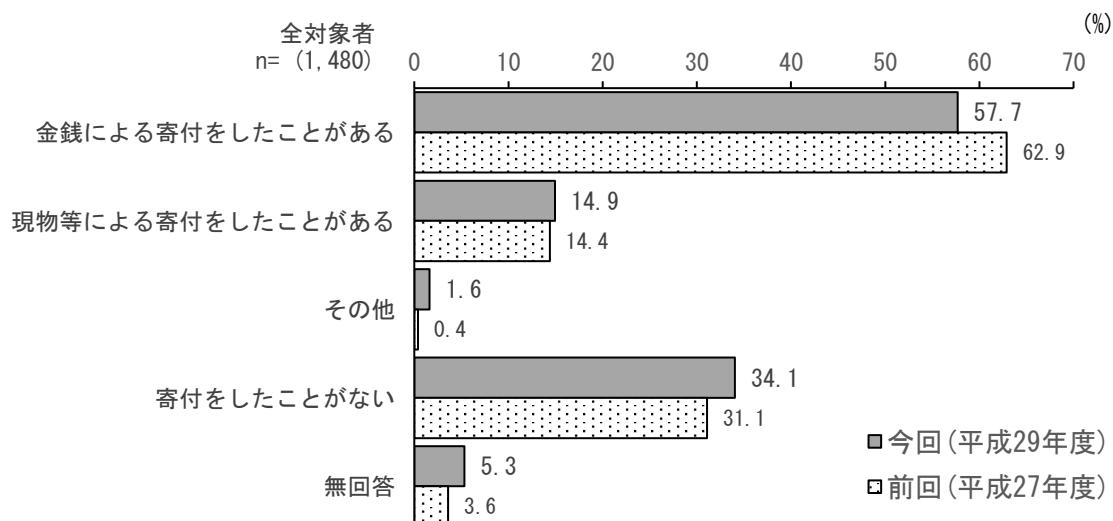
「ボランティアを受け入れる団体・NPO等に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年齢別でみると、20歳代が54.2%と最も高く、次いで、50歳代（52.3%）、30歳代（48.8%）、40歳代（48.2%）の割合が高くなっている。「ボランティア活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人（団体等）を養成・支援すべき」は、50歳代が37.4%と最も高く、40歳代（31.2%）と30歳代（30.8%）が3割以上となっている。

5. 寄付について

(1) 寄付経験の有無

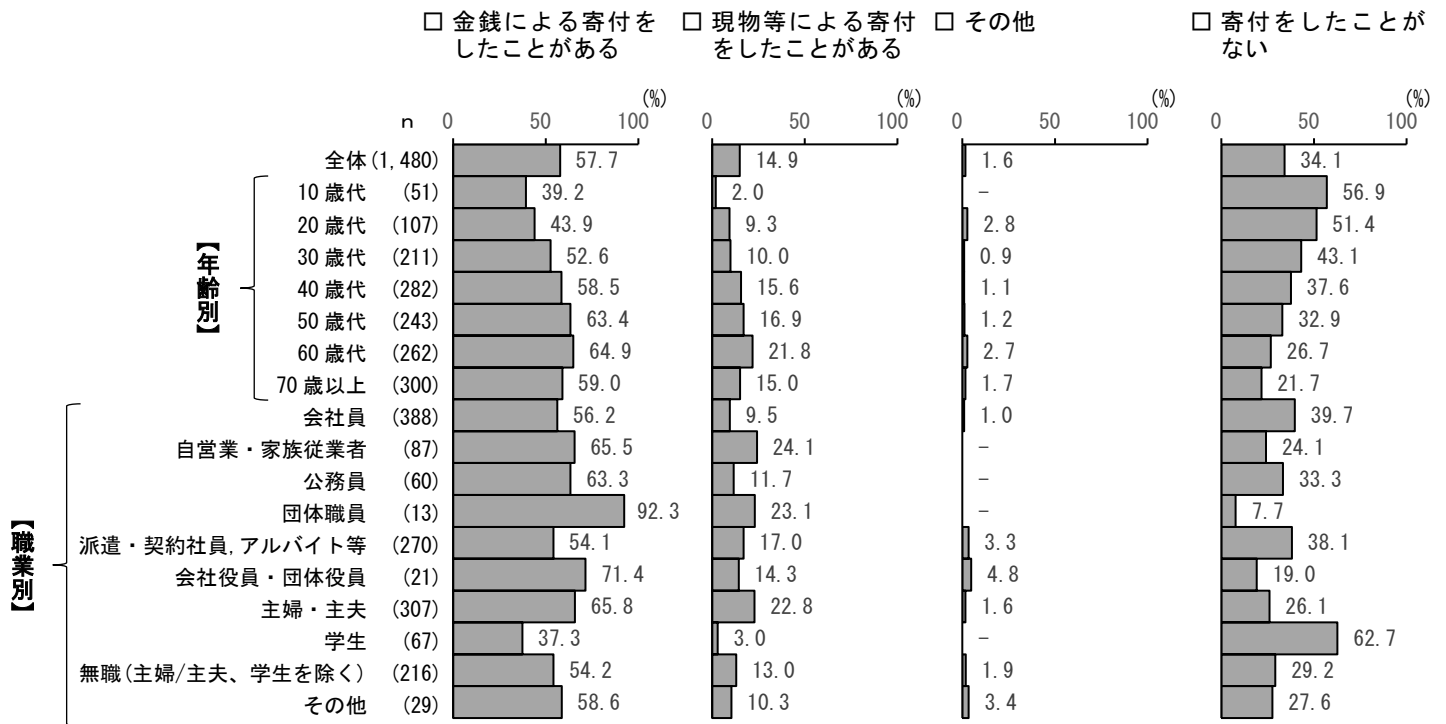
問5-1 あなたは寄付（募金、現物寄付等）をしたことがありますか。
（あてはまるものすべてに○）

【図表70：寄付経験の有無】



寄付経験の有無については、「金銭による寄付をしたことがある」が57.7%で、前回調査（平成27年度）の62.9%より5.2ポイント減っている。また、「現物等による寄付をしたことがある」は14.9%で、こちらは前回調査（平成27年度）の14.4%とほぼ変わらない。

【図表71：年齢別・職業別／寄付経験の有無】

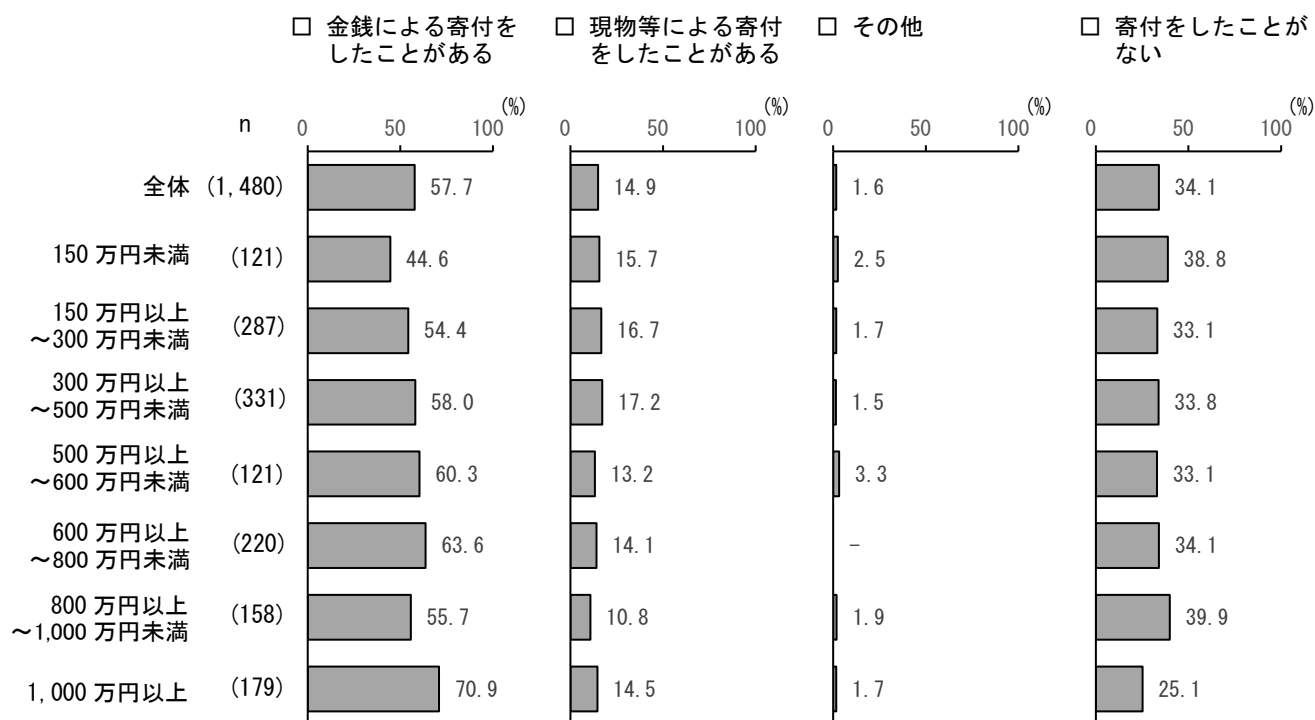


「金銭による寄付をしたことがある」割合を年齢別にみると、60歳代が64.9%と最も高く、おおむね年代が上がるにつれ高くなっている。「現物等による寄付をしたことがある」についても同様の傾向となっている。

「金銭による寄付をしたことがある」を職業別にみると、「主婦・主夫」(65.8%)、「自営業・家族従業者」(65.5%)、「公務員」(63.3%)などで6割を超えて高くなっている。

一方、「寄付をしたことがない」は、10歳代(56.9%)、20歳代(51.4%)、「学生」(62.7%)などの割合が高い。

【図表7-2：年収区分別／寄付経験の有無】



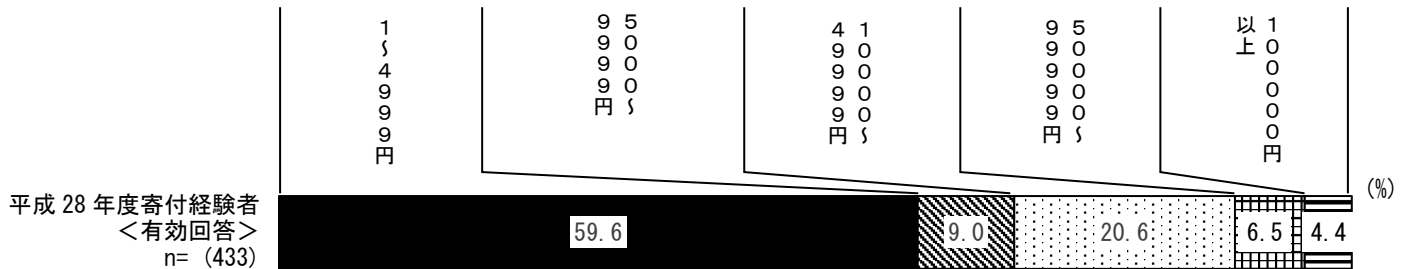
「金銭による寄付をしたことがある」割合を年収区別にみると、「1,000万円以上」が70.9%と最も高く、おおむね年収が上がるにつれ高くなっている。「現物等による寄付をしたことがある」については、年収区分による違いはそれほどみられない。

(2) 平成28年度に寄付した金額、回数、現物を寄付した回数

【問5-1で「1~3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

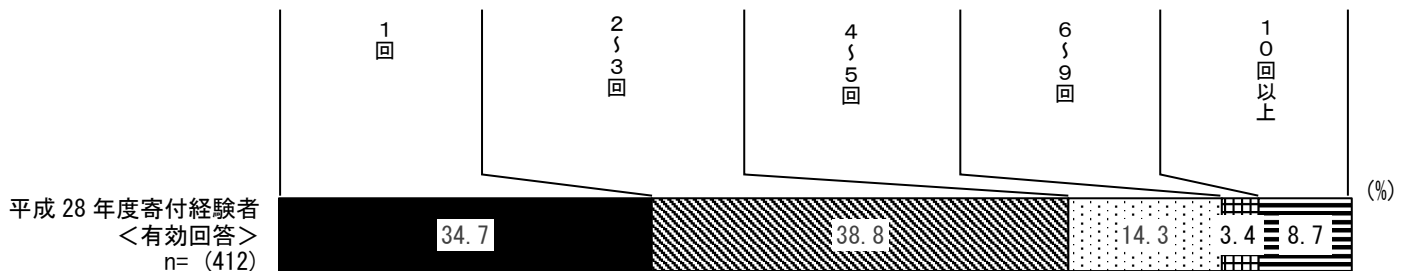
問5-2 平成28年度（平成28年4月~平成29年3月）に寄付をした金額（金銭による寄付のみ）、金銭による寄付をした回数、現物等による寄付をした回数をご記入ください。

【図表73：個人の年間寄付金額】



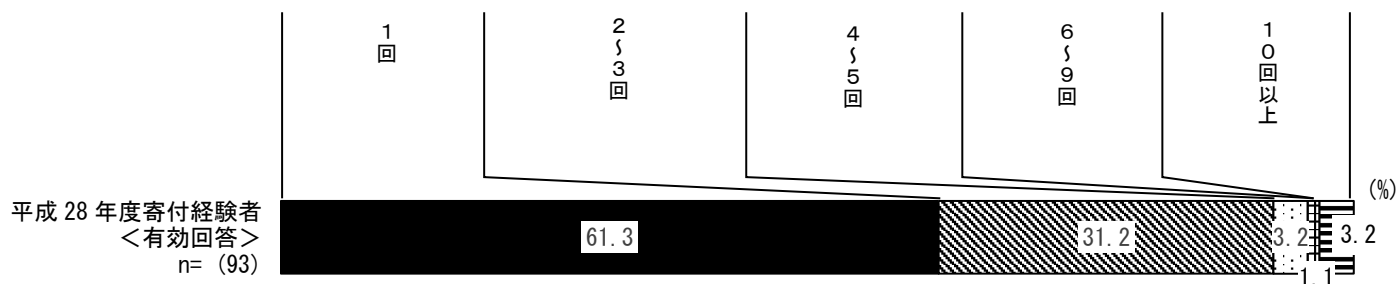
個人の年間寄付金額は、「1~4,999円」が59.6%と最も高く、次いで「10,000~49,999円」(20.6%)、「5,000~9,999円」(9.0%)、「50,000~99,999円」(6.5%)、「100,000円以上」(4.4%)となっている。なお、寄付額の平均は12,576円となっている。

【図表74：個人の年間金銭寄付回数】



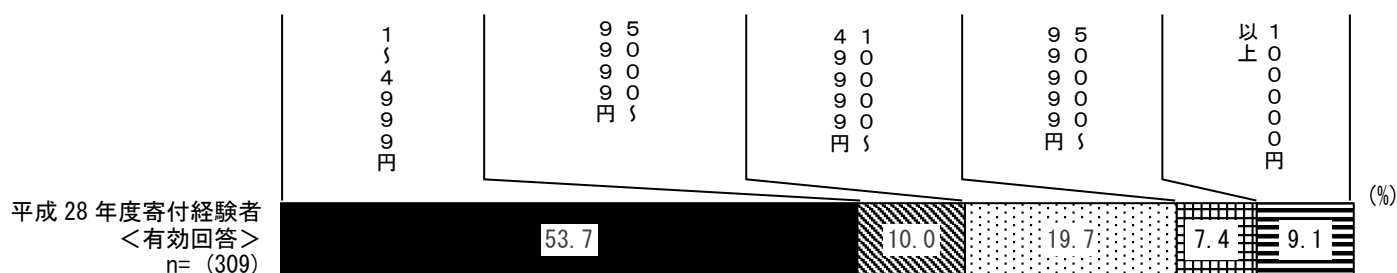
個人の年間金銭寄付回数については、「2~3回」が38.8%と最も高く、次いで「1回」(34.7%)、「4~5回」(14.3%)、「10回以上」(8.7%)、「6~9回」(3.4%)となっている。なお、寄付回数の平均は3.1回となっている。

【図表75：個人の年間現物等寄付回数】



年間現物等寄付回数については、「1回」が61.3%と最も高く、次いで「2～3回」(31.2%)、「4～5回」(3.2%)、「10回以上」(3.2%)、「6～9回」(1.1%)となっている。

【図表76：世帯全体の年間寄付金額】

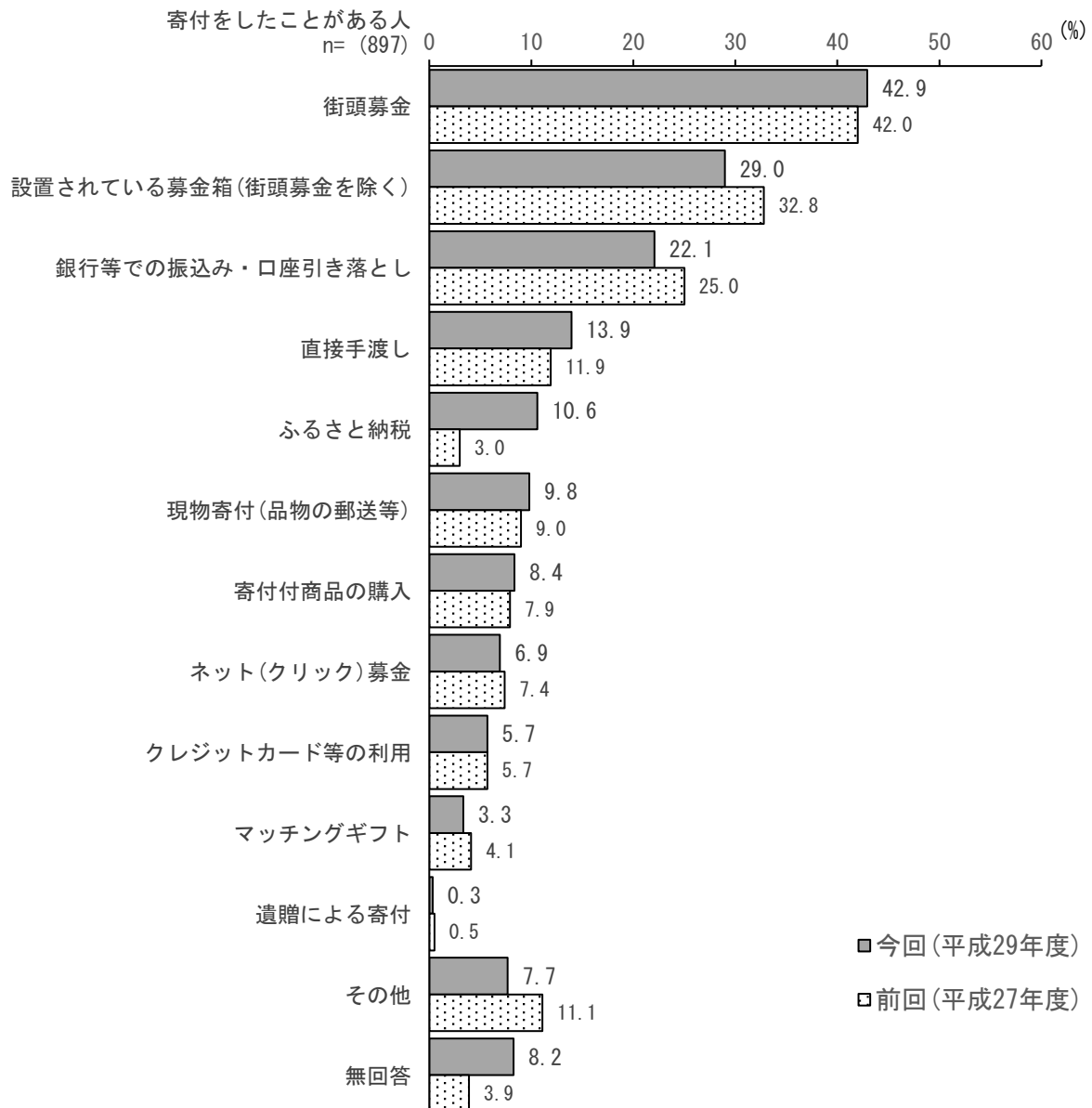


世帯全体の年間の寄付金額は、「1～4,999円」が53.7%と最も高く、次いで「10,000～49,999円」(19.7%)、「5,000～9,999円」(10.0%)、「100,000円以上」(9.1%)、「50,000～99,999円」(7.4%)となっている。

(3) 寄付を行った方法

【問5-1で「1~3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問5-3 あなたが、寄付を行った方法は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

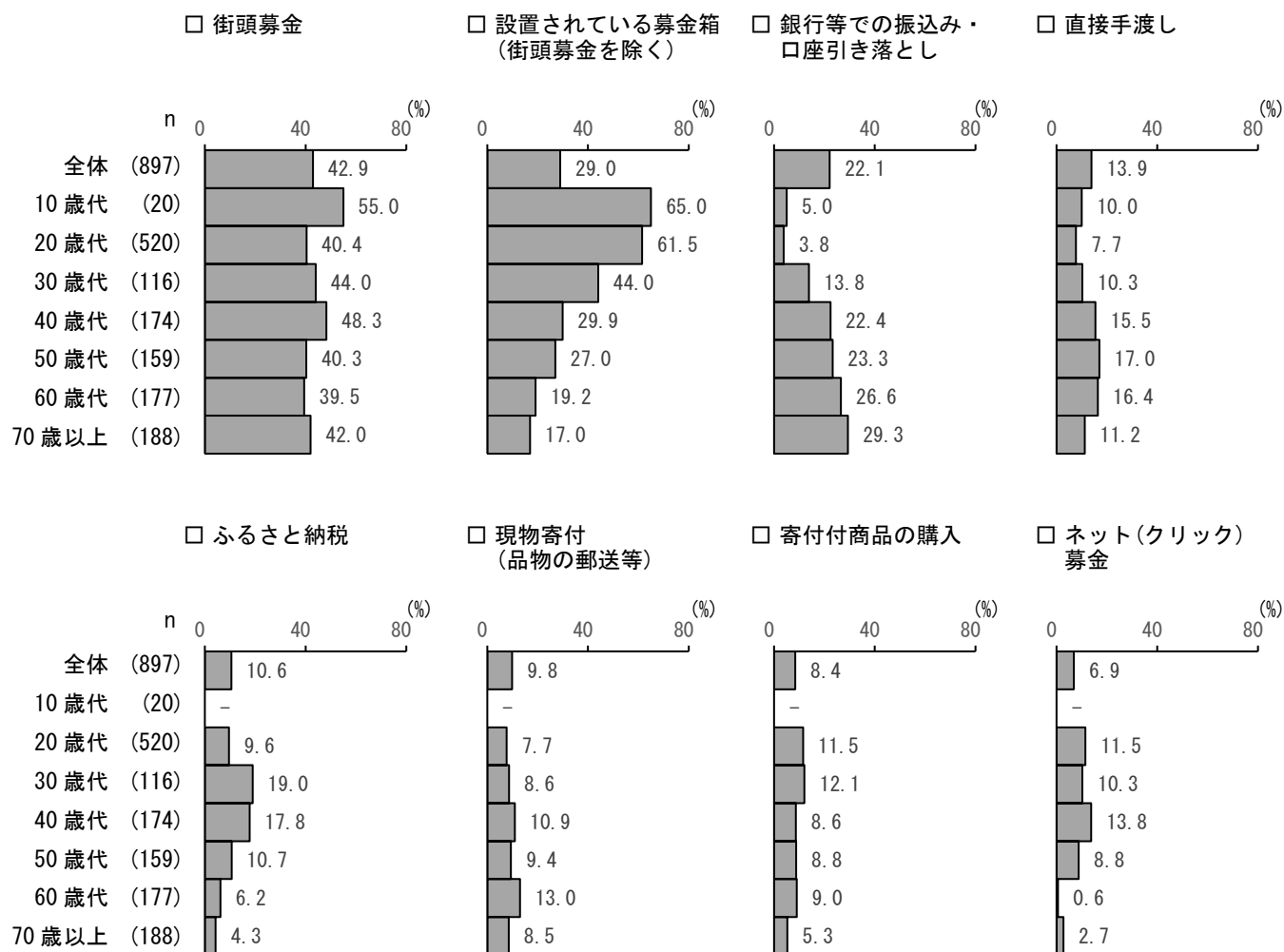
【図表77：寄付を行った方法】



寄付を行った方法については、「街頭募金」が42.9%と最も高く、次いで、「設置されている募金箱(街頭募金を除く)」(29.0%)、「銀行等での振込み・口座引き落とし」(22.1%)の順となっている。

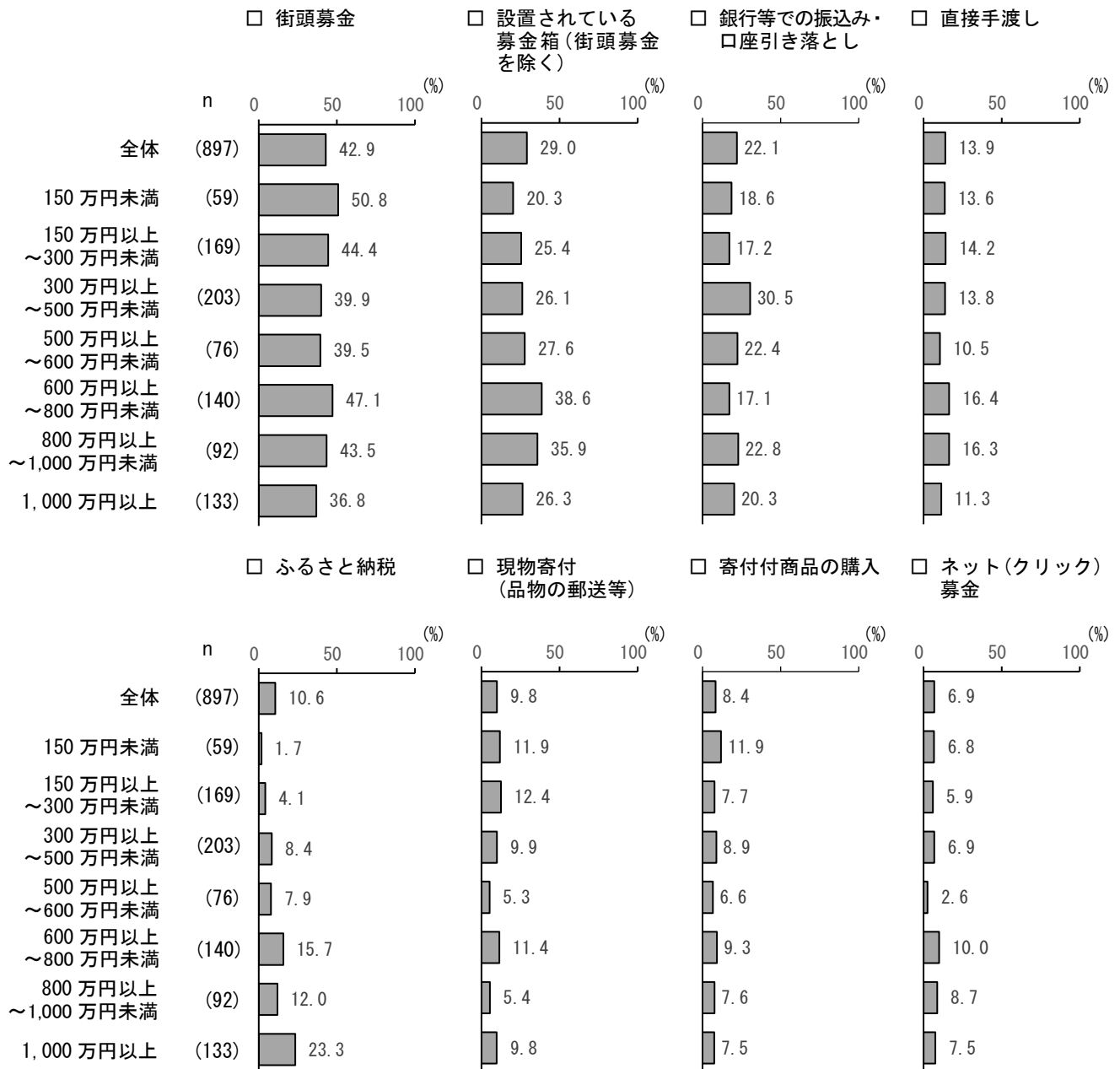
前回調査(平成27年度)と比べると、「設置されている募金箱(街頭募金を除く)」「銀行等での振込み・口座引き落とし」の割合が減り、「直接手渡し」「ふるさと納税」が増えている。

【図表78：年齢別／寄付を行った方法】上位8項目



「街頭募金」を年代別にみると、40歳代が48.3%と最も高くなっており、他の年代もおおむね4割以上となっている。「設置されている募金箱(街頭募金を除く)」は、20歳代で61.5%となっており、年代が上がるにつれて割合が低くなっている。一方、「銀行等での振込み・口座引き落とし」は年代が上がるにつれて割合が高くなり、70歳代以上が23.3%と最も高い。

【図表79：年収区分別／寄付を行った方法】上位8項目



「街頭募金」を年収区分別にみると、「150万円未満」(50.8%)が最も高く、「600万円以上～800万円未満」(47.1%)、「150万円以上～300万円未満」(44.4%)、「800万円以上～1,000万円未満」(43.5%)でも4割以上となっている。

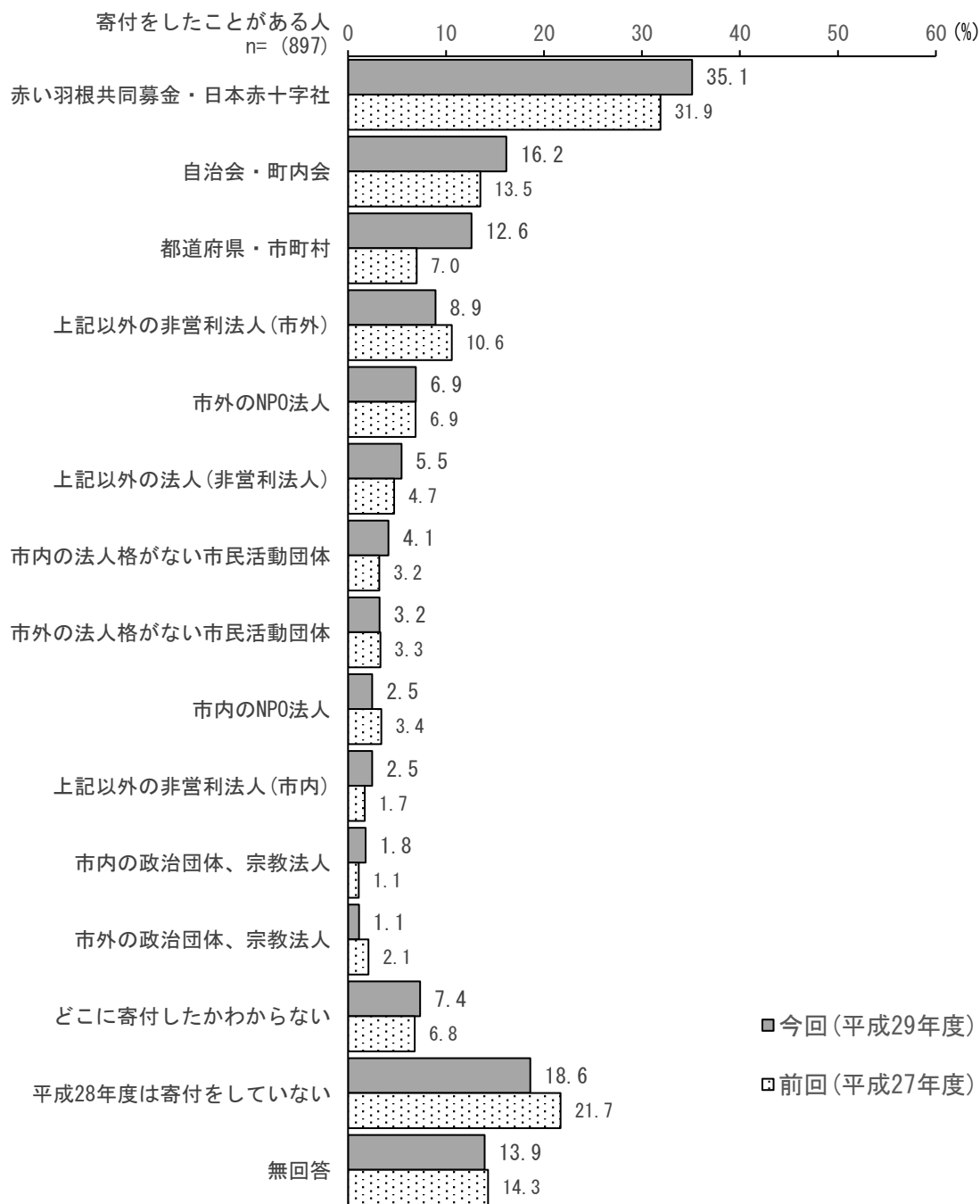
「設置されている募金箱(街頭募金を除く)」は、「600万円以上～800万円未満」(38.6%)、「800万円以上～1,000万円未満」(35.9%)の割合が高い。

「銀行等での振込み・口座引き落とし」は、「300万円以上～500万円未満」が30.5%と最も高くなっている。

(4) 平成28年度に寄付をした団体

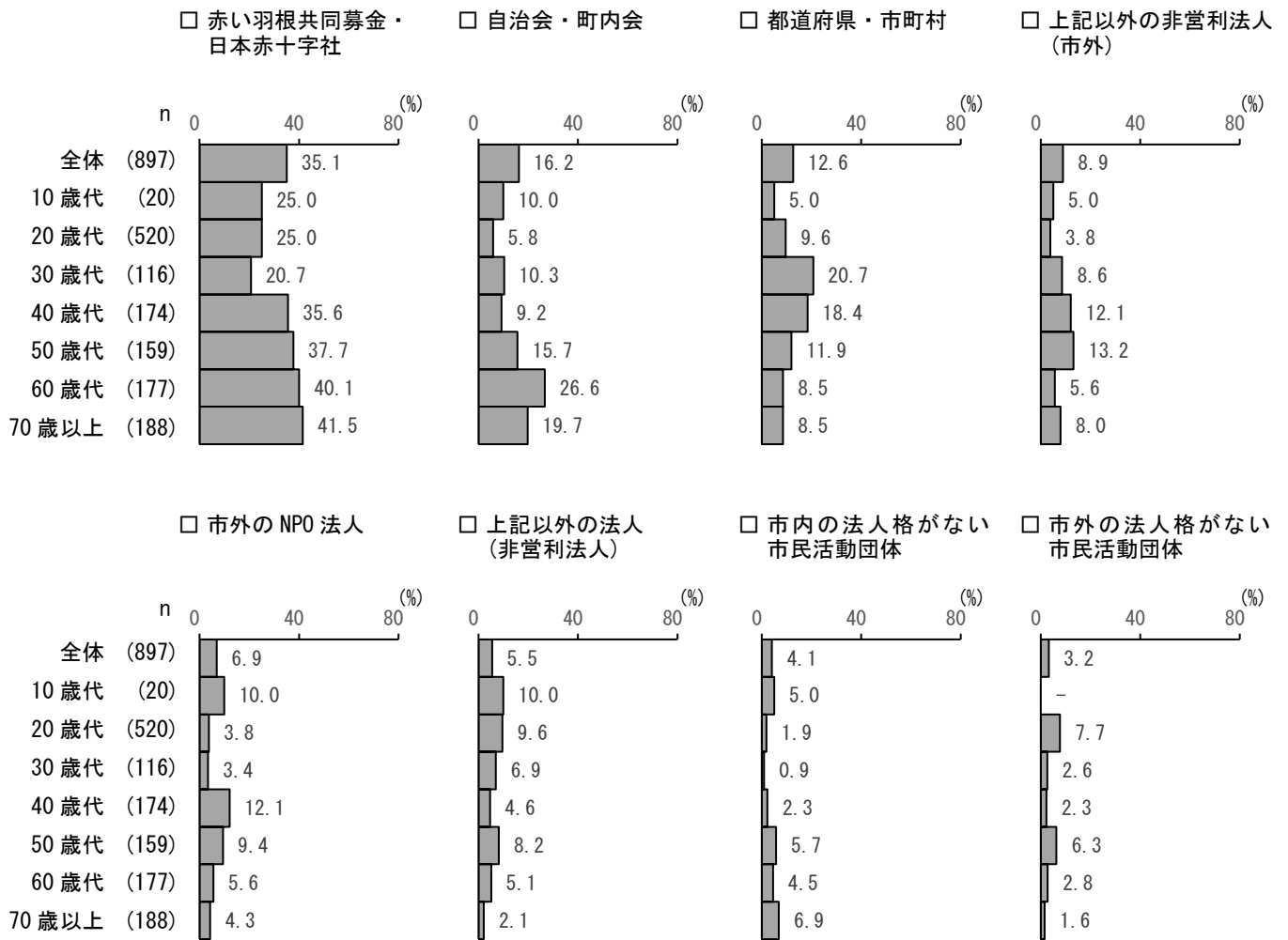
【問5-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問5-4 あなたが、平成28年度（平成28年4月～平成29年3月）に寄付をした団体はどこですか。（あてはまるものすべてに○）

【図表80：平成28年度に寄付をした団体】



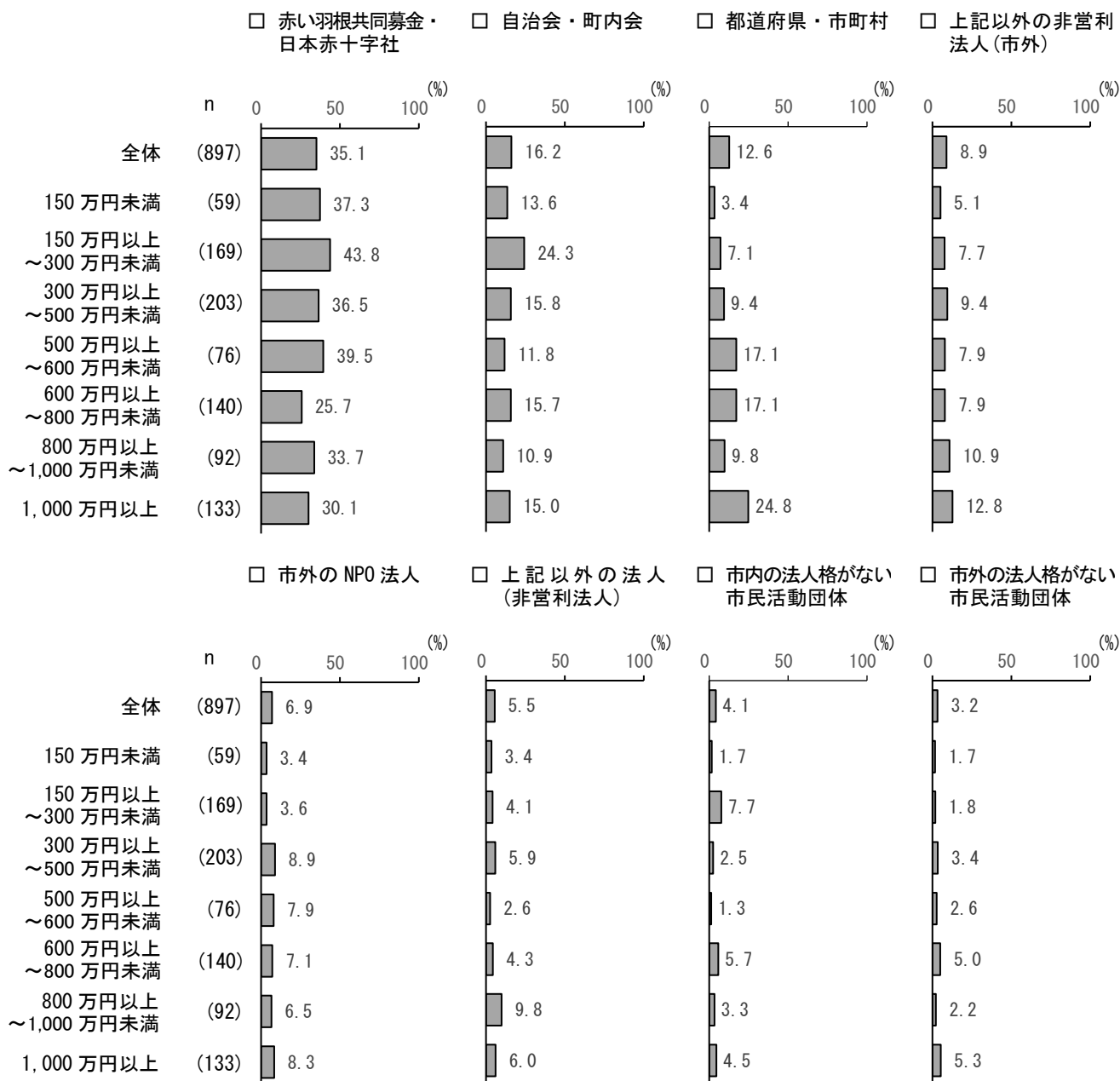
平成28年度に寄付をした団体については、「赤い羽根共同募金・日本赤十字社」が35.1%と最も高く、次いで、「自治会・町内会」（16.2%）、「都道府県・市町村」（12.6%）の順となっている。

【図表 8 1 : 年齢別／平成 2 8 年度に寄付をした団体】 上位 8 項目



「赤い羽根共同募金・日本赤十字社」を年代別にみると、40歳代以上で3割を超えており、70歳代が41.5%と最も高くなっている。「自治会・町内会」は、60歳代が26.6%と最も高く、次いで、70歳代(19.7%)、50歳代(15.7%)となっている。「都道府県・市町村」は、30歳代(20.7%)や40歳代(18.4%)で割合が高くなっている。

【図表82：年収区分別／平成28年度に寄付をした団体】上位8項目



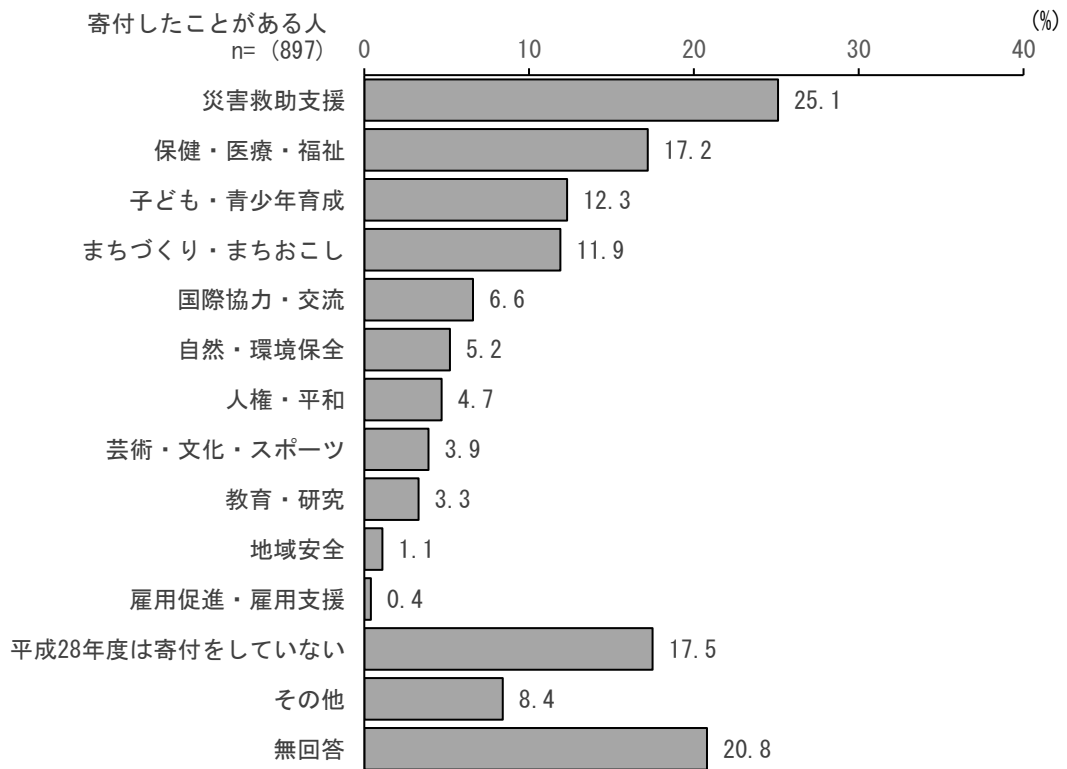
「赤い羽根共同募金・日本赤十字社」を年収区分別にみると、「150万円以上～300万円未満」(43.8%)、「500万円以上～600万円未満」(39.5%)、「150万円未満」(37.3%)、「300万円以上～500万円未満」(36.5%)などで高くなっている。「自治会・町内会」は、「150万円以上～300万円未満」が24.3%と最も高い一方、「都道府県・市町村」では「1,000万円以上」が24.8%と最も高くなっている。

(5) 平成28年度に寄付をした分野

【問5-1で「1～3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】

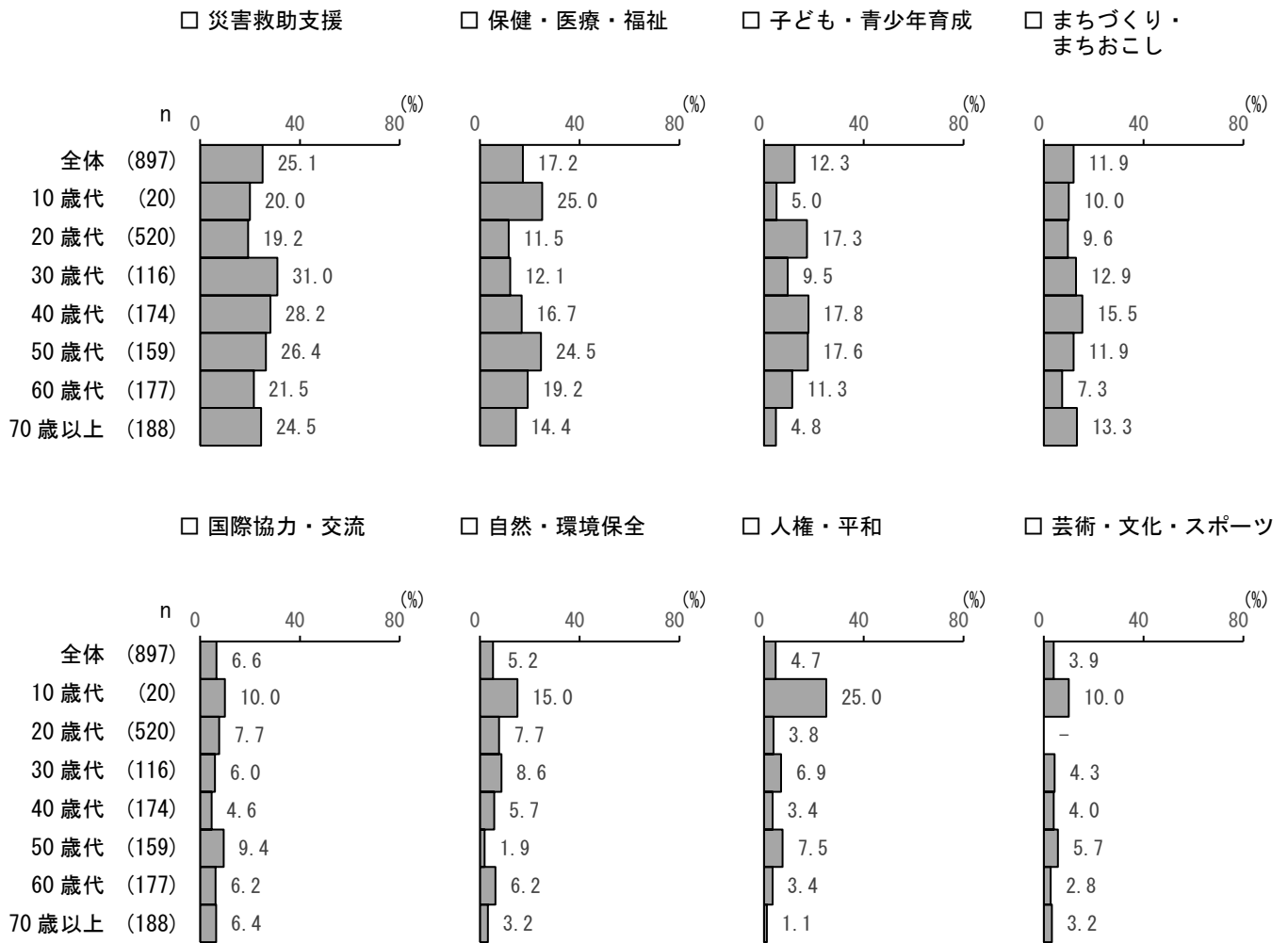
問5-5 あなたが、平成28年度（平成28年4月～平成29年3月）に寄付をした分野はどちらですか。（あてはまるものすべてに○）

【図表83：平成28年度に寄付をした分野】



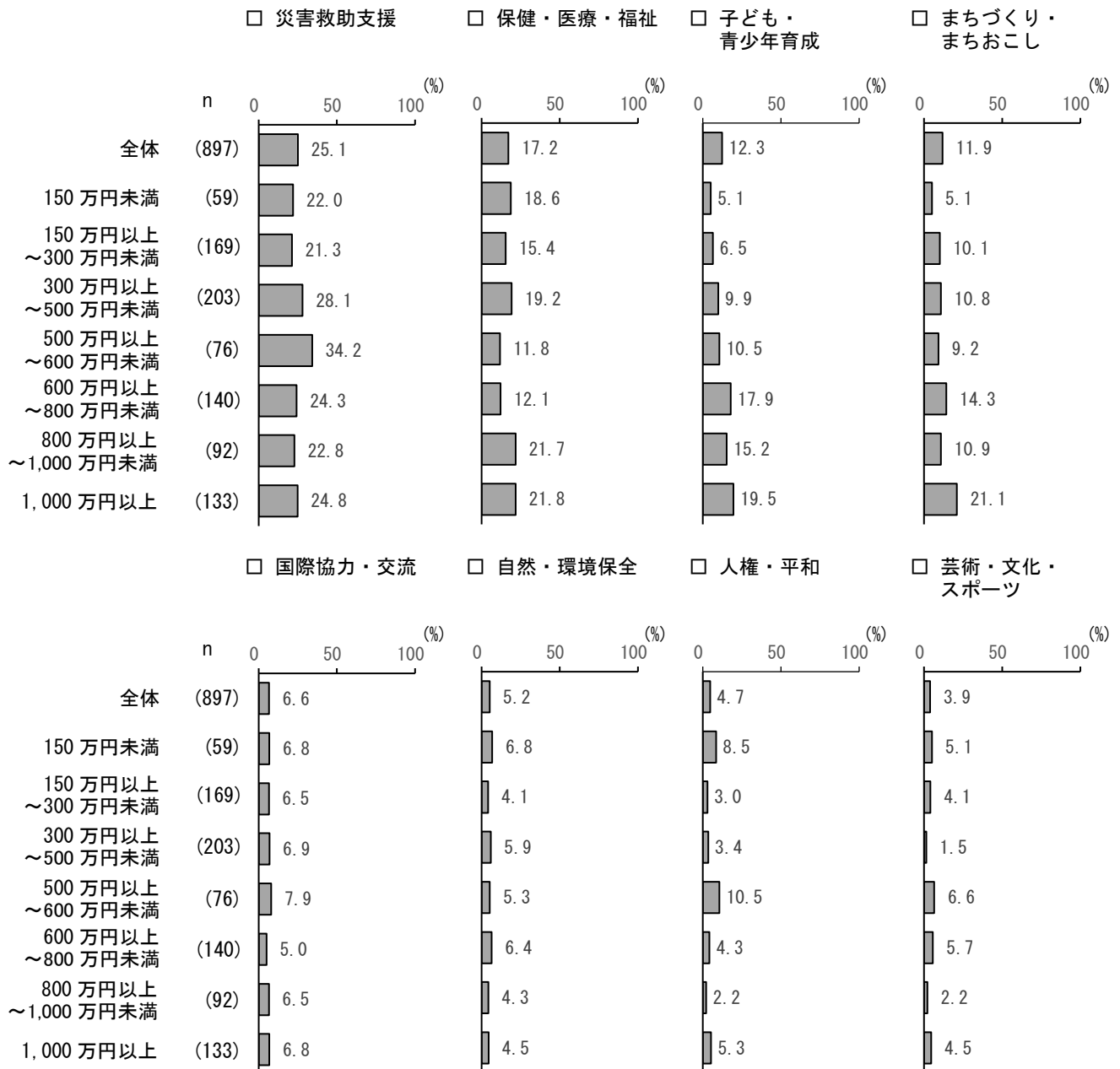
平成28年度に寄付をした分野については、「災害救助支援」が25.1%と最も高く、次いで、「保健・医療・福祉」(17.2%)、「子ども・青少年育成」(12.3%)、「まちづくり・まちおこし」(11.9%)の順となっている。

【図表84：年齢別／平成28年度に寄付をした分野】上位8項目



「災害救助支援」を年代別にみると、30歳代（31.0%）、40歳代（28.2%）、50歳代（26.4%）などで高くなっている。「保健・医療・福祉」については、50歳代の割合が24.5%と高く、「子ども・青少年育成」では、40歳代（17.8%）、50歳代（17.6%）、20歳代（17.3%）が他の年代より高くなっている。

【図表85：年収区分別／平成28年度に寄付をした分野】上位8項目



「災害救助支援」を年収区分別にみると、「500万円以上～600万円未満」が34.2%と最も高く、次いで、「300万円以上～500万円未満」(28.1%)、「1,000万円以上」(24.8%)、「600万円以上～800万円未満」(24.3%)、となっている。

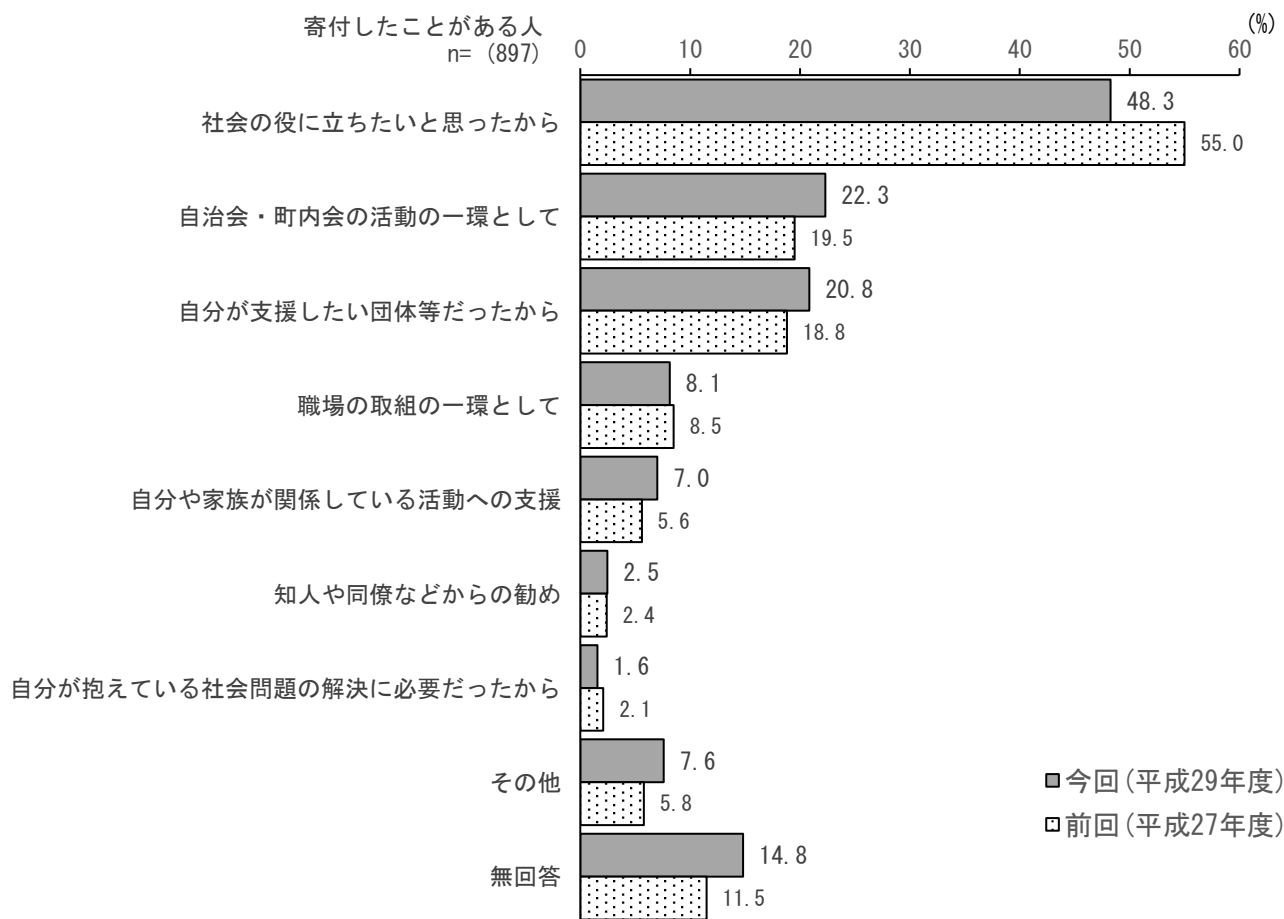
「保健・医療・福祉」では、「1,000万円以上」(21.8%)や「800万円以上～1,000万円未満」(21.7%)の割合が高くなっている。

「子ども・青少年育成」は、おおむね年収が上がるにつれ割合が高くなり、「1,000万円以上」が19.5%と最も高くなっている。

(6) 寄付をした理由

【問5-1で「1~3. 寄付をしたことがある」に○をつけた方にお聞きします】
 問5-6 あなたが寄付をした理由はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

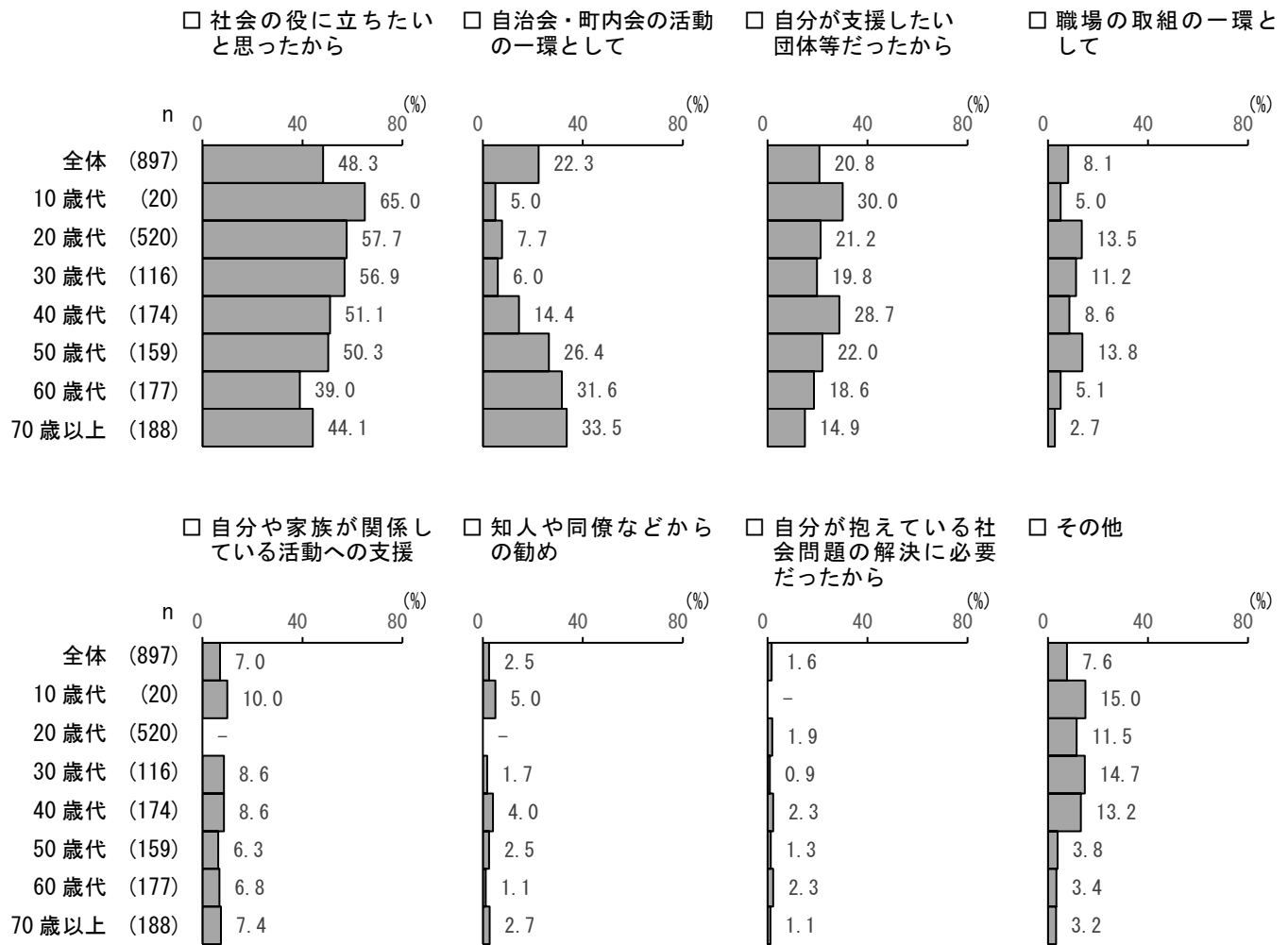
【図表86：寄付をした理由】



寄付をした理由については、「社会の役に立ちたいと思ったから」が48.3%と最も高くなっているが、前回調査（平成27年度）の55.0%より6.7%下がっている。

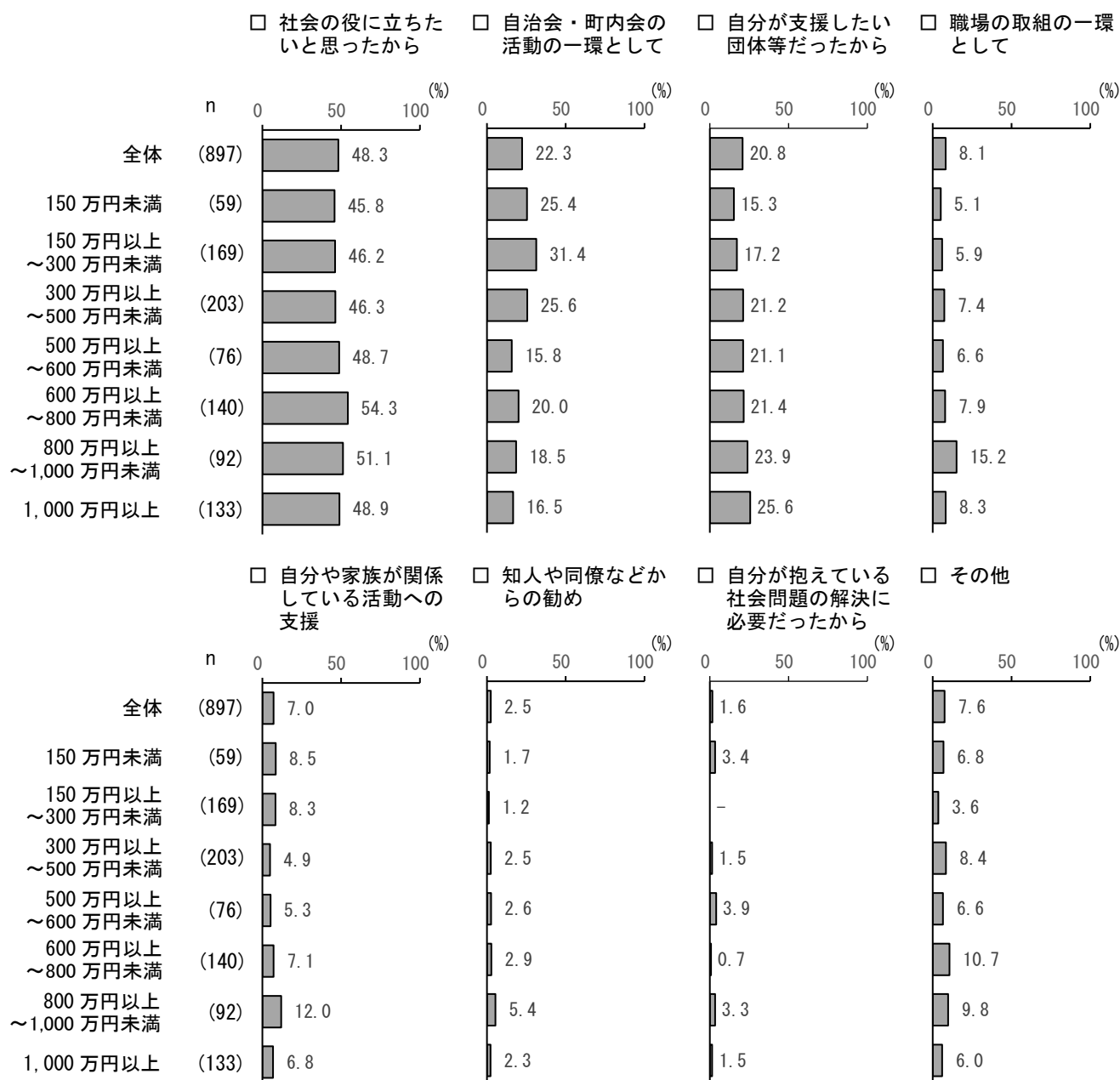
続いて割合が高いのは、「自治会・町内会の活動の一環として」（22.3%）、「自分が支援したい団体等だったから」（20.8%）の順となっている。

【図表87：年齢別／寄付をした理由】



「社会的役に立ちたいと思ったから」を年代別にみると、20歳代（57.7%）、30歳代（56.9%）、40歳代（51.1%）、50歳代（50.3%）で5割以上となっている。一方、「自治会・町内会の活動の一環として」は、年代が上がるにつれて割合が高くなり、70歳以上（33.5%）や60歳代（31.6%）で3割を超えている。

【図表 8 8 : 年収区分別／寄付をした理由】



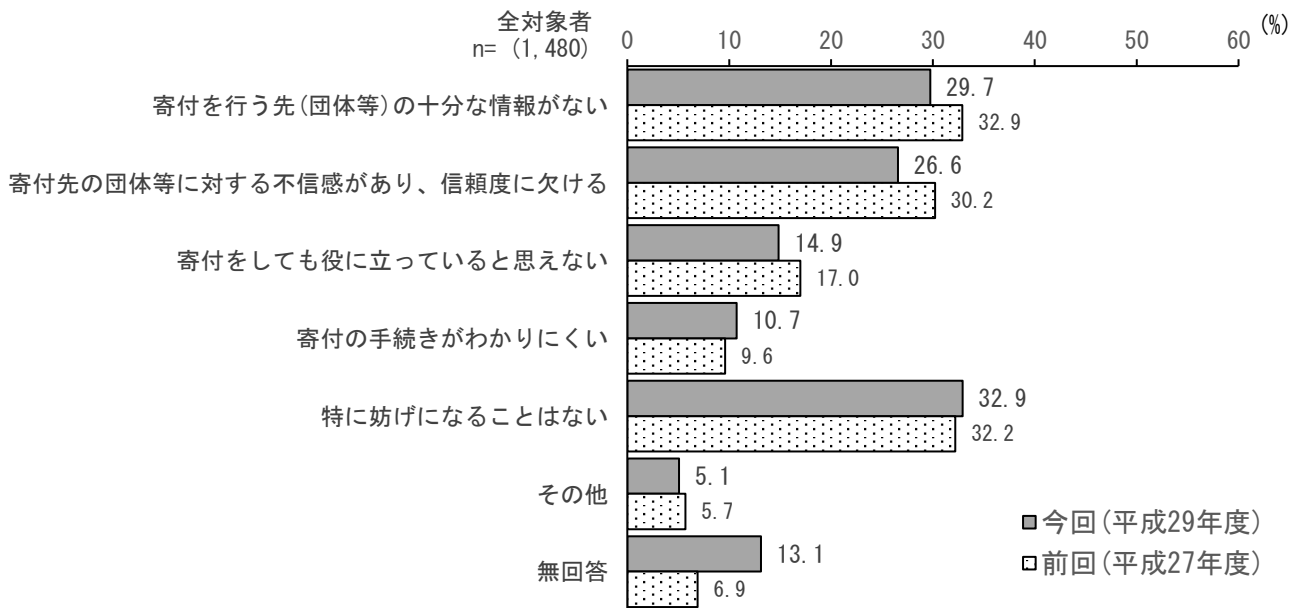
「社会的役に立ちたいと思ったから」を年収区分別にみると、「600万円以上～800万円未満」が54.3%と最も高いが、いずれの年収区分においても5割前後で大きな違いはみられない。

「自治会・町内会の活動の一環として」では、「150万円以上～300万円未満」(31.4%)や「300万円以上～500万円未満」(25.6%)、「150万円未満」(25.4%)の割合が高くなっている。

(7) 寄付をするにあたり妨げとなること

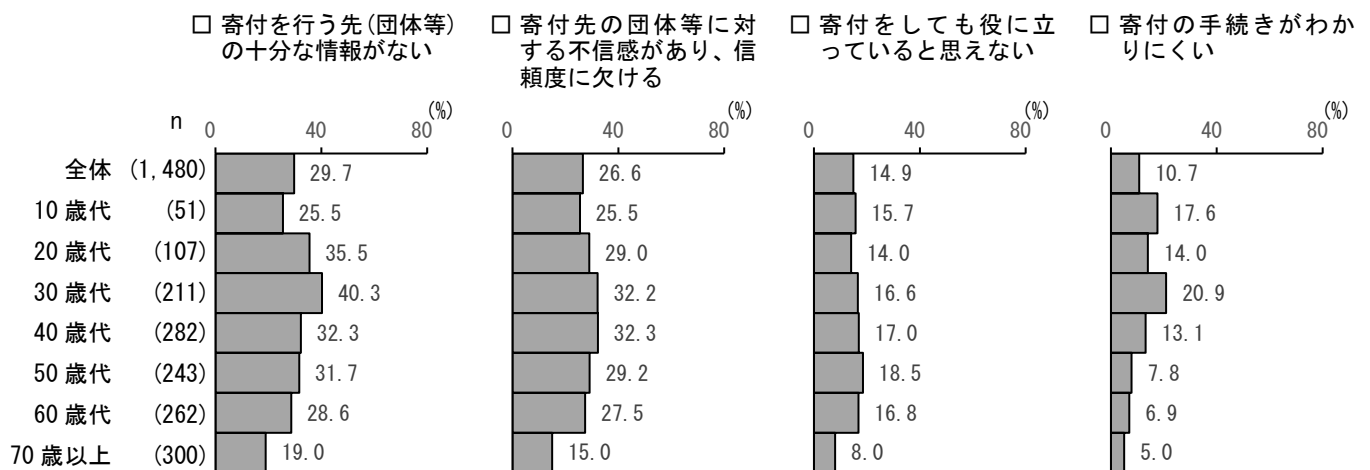
問5-7 あなたが寄付をするにあたり妨げになることはありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表89：寄付をするにあたり妨げとなること】



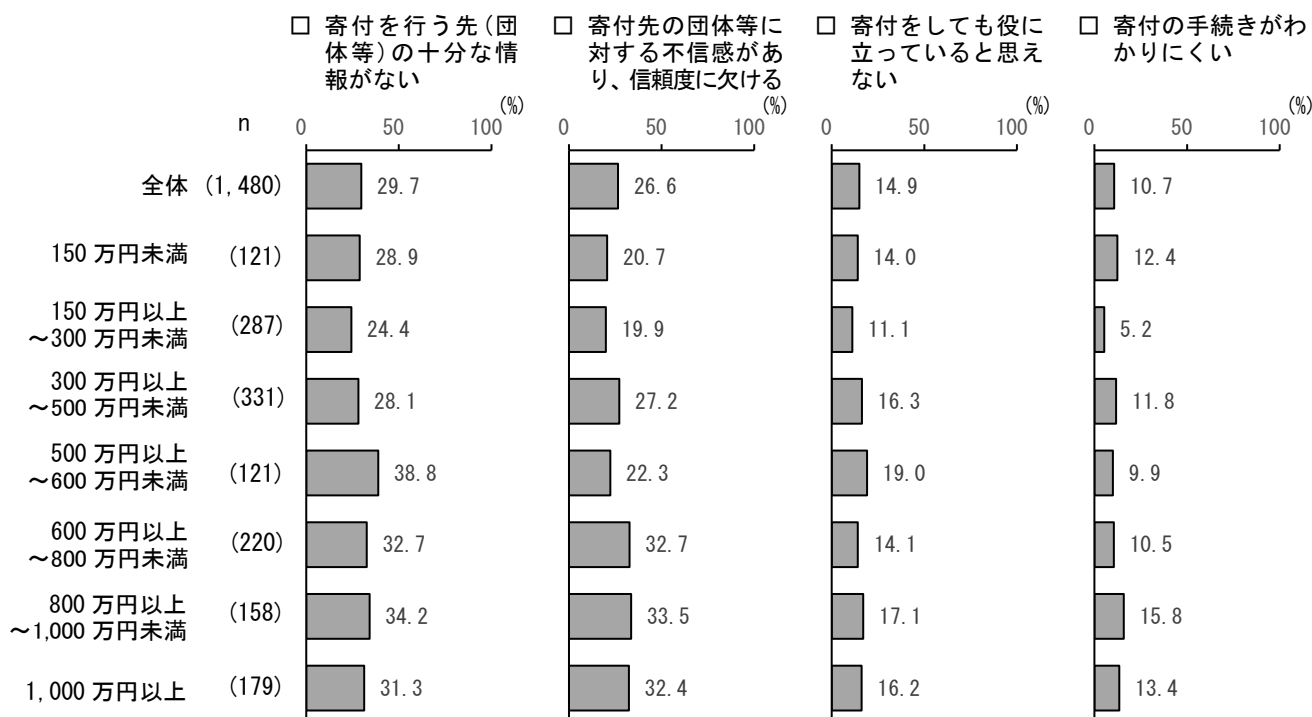
寄付をするにあたり妨げとなることについては、「寄付を行う先(団体等)の十分な情報がない」が29.7%、次いで「寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける」(26.6%)、「寄付をしても役に立っていると思えない」(14.9%)、「寄付の手続きがわかりにくい」(10.7%)の順となっている。なお、「特に妨げになることはない」と回答した人は32.9%となっている。

【図表90：年齢別／寄付をするにあたり妨げとなること】



「寄付を行う先(団体等)の十分な情報がない」を年代別にみると、30歳代が40.3%と最も高く、次いで、20歳代(35.5%)、40歳代(32.3%)、50歳代(31.7%)が3割を超えている。「寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける」は、70歳以上を除く年代で3割前後となっている。

【図表9-1：年収区分別／寄付をするにあたり妨げとなること】



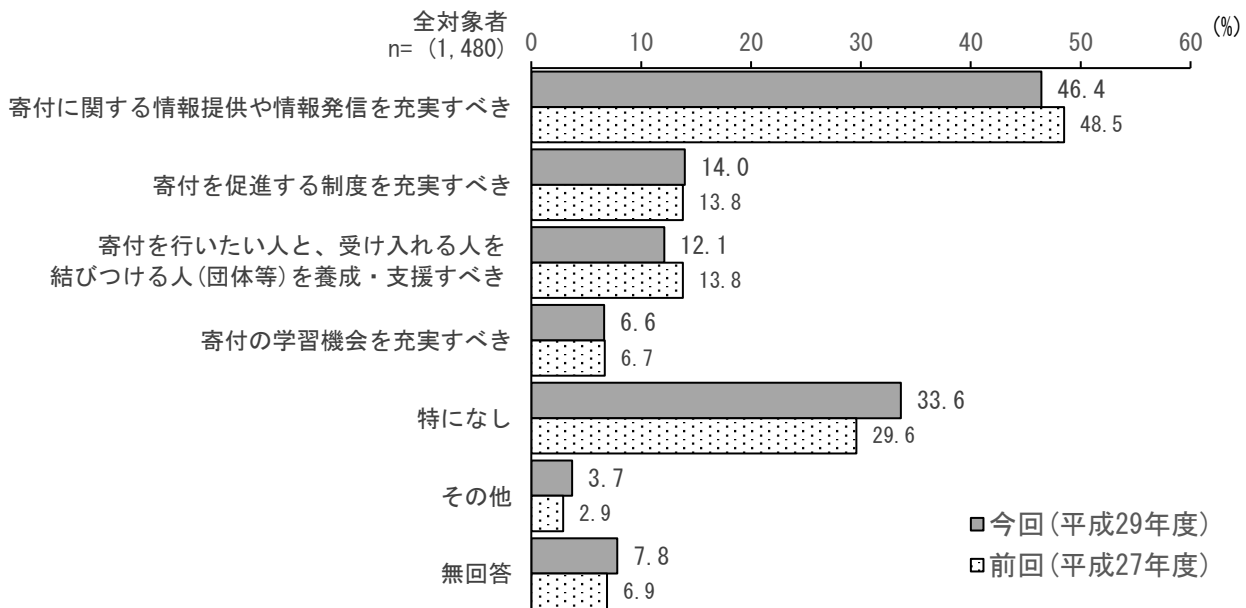
「寄付を行う先(団体等)の十分な情報がない」を年収区別にみると、「500万円以上～600万円未満」が38.8%と最も高く、他の年収区分においても3割前後となっている。

「寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける」は、600万円以上のすべての年収区分において3割以上となっている。

(8) 寄付促進のために市に望むこと

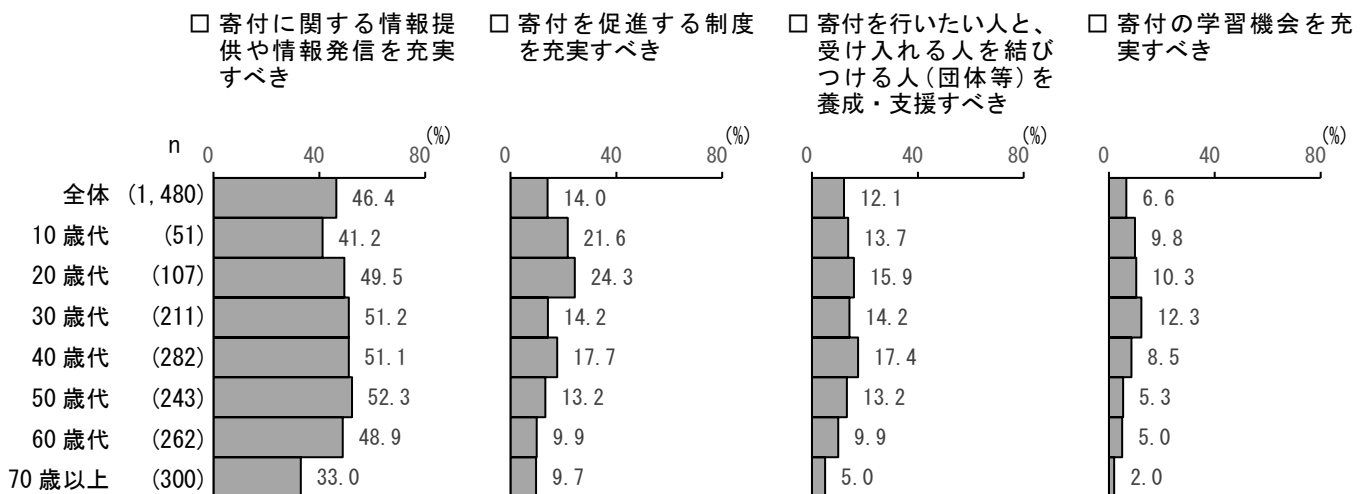
問5-8 寄付促進のために、市にどのようなことを望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図表9-2：寄付促進のために市に望むこと】



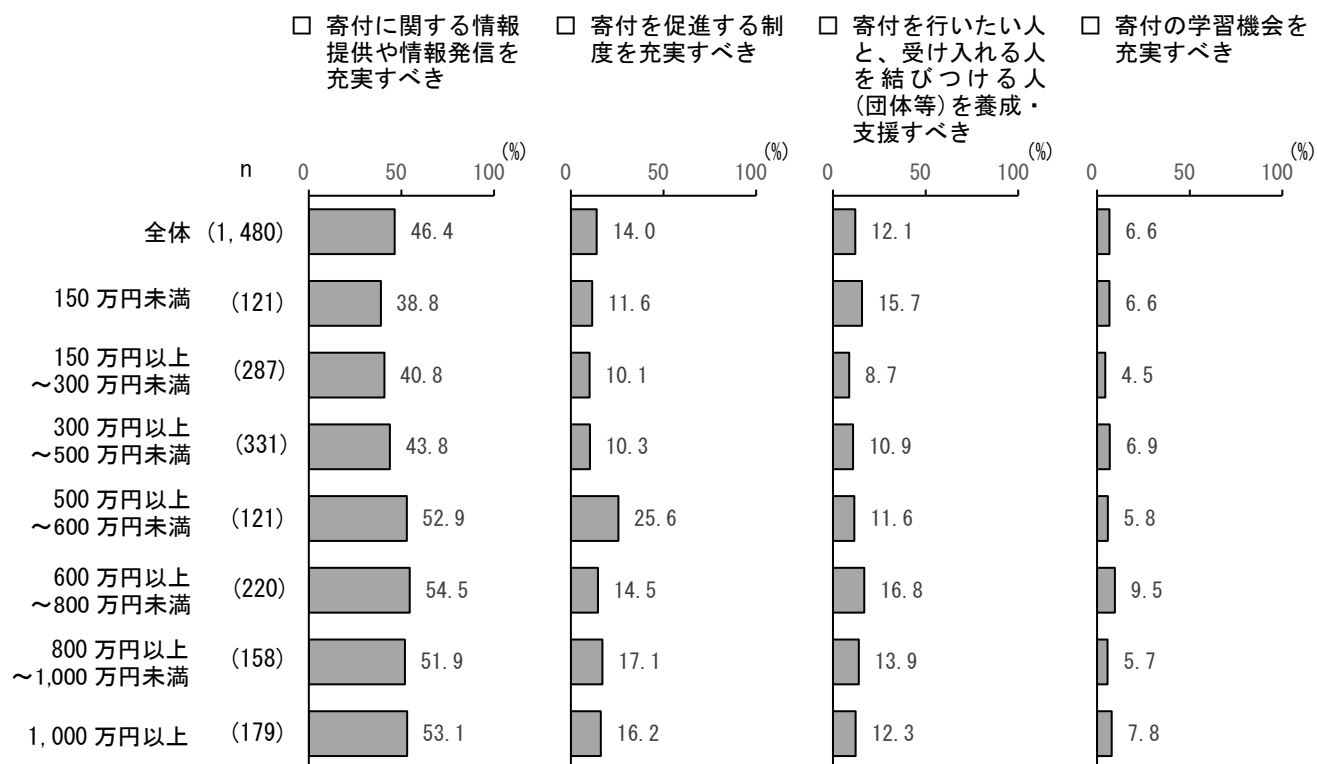
寄付促進のために市に望むことについては、「寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が46.4%と最も高く、次いで「寄付を促進する制度を充実すべき」(14.0%)、「寄付を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」(12.1%)、「寄付の学習機会を充実すべき」(6.6%)の順となっている。なお、「特になし」と回答した人は33.6%となっている。

【図表9-3：年齢別／寄付促進のために市に望むこと】



「寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年代別にみると、20～60歳代が5割前後と高くなっている。「寄付を促進する制度を充実すべき」は、20歳代(24.3%)、40歳代(17.7%)、30歳代(14.2%)、50歳代(13.2%)などとなっている。

【図表94：年収区分別／寄付促進のために市に望むこと】



「寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき」を年収区別にみると、500万円以上のすべての年収区分において5割を超えている。

「寄付を促進する制度を充実すべき」は、「500万円以上～600万円未満」が25.6%と最も高く、次いで、「800万円以上～1,000万円未満」(17.1%)、「1,000万円以上」(16.2%)の順となっている。

6. その他

(1) 自由意見

問6 その他、何かご意見等がございましたらお書きください。

自由意見について、236人からの回答があった。回答の多かった内容は、「市民活動・ボランティア活動について」「このアンケートについて」「市民活動情報の発信について」の順であった。

内容	件数
市民活動・ボランティア活動について (例：機会があれば参加したい、自分の生活で参加できない等)	69
このアンケートについて (例：アンケートに答えるのが難しい等)	55
市民活動情報の発信について (例：情報提供の充実等)	22
寄付対象団体や寄付金の流れについて (例：募金が正しく使われているか等)	21
まちづくりについて (例：道路整備、町の施設の充実等)	20
自治会・町内会活動や地域コミュニティについて (例：活動の負担が大きい等)	17
高齢者や障がい者施策について (例：高齢者や障がいのある方向け支援の充実等)	12
文化・スポーツイベントの開催や文化・スポーツ施設の整備について (例：ホールの整備等)	10
藤沢市の環境整備について (例：樹木の管理等)	9
藤沢市の財政について (例：税金が高い等)	8
市職員について (例：職員の地域活動等)	7
児童施策について (例：子ども向け支援の充実等)	7
市民のマナーの改善について (例：住民のモラルやマナー等)	2
防災活動について (例：消防団等)	2
防犯について (例：地域の安全安心)	1
上記以外の市政について	14
その他	9

※ 1人で複数の記載内容があるため、合計の件数と回答者数は一致しない。

